

茶関連業の経営状況および
意識の実態把握調査
2019 結果報告書

2020年4月

名古屋学院大学 商学部 杉浦礼子

目次

- I 「茶関連業の経営状況および意識の実態把握調査」概要
 - 1. 「茶関連業の経営状況および意識の実態把握調査」(2019年)の目的
 - 2. 「茶関連業の経営状況および意識の実態把握調査」(2019年)の概要
- II 「茶関連業の経営状況および意識の実態把握調査」結果
 - 1. 有効回答の属性
 - 2. 茶園面積の変化と現状
 - 2-1 茶園栽培面積の動向(単数回答)
 - 2-2 茶園栽培面積増加傾向の理由(複数回答)
 - 2-3 茶園栽培面積減少傾向の理由(複数回答)
 - 2-4 栽培放棄茶園の現状(複数回答)
 - 3. 茶園の栽培状況について
 - 3-1 栽培している茶樹資源(複数回答)
 - 3-2 2番茶の栽培動向(複数回答)
 - 3-3 茶樹派生資源の動向(単数回答)
 - 3-4 茶園栽培の今後の見通し(単数回答)
 - 3-5 茶園栽培が直面しているあるいは解決したい課題(複数回答)
 - 3-6 販売価格下落の要因(複数回答)
 - 4. 茶園栽培にかかる労働について
 - 4-1 仕事と生活に費やしている時間のバランス(単数回答)
 - 4-2 茶栽培従事者の労働時間(数量回答)
 - 4-3 茶栽培従事者数(数量回答)
 - 4-4 茶事業への所得からみた関わり方(単数回答)
 - 5. 茶に関する事業の経営状況について
 - 5-1 最近3年間の売上高の傾向(単数回答)
 - 5-2 1時間の労働で得る目指すべき所得と現状(数量回答)
 - 6. 茶葉を利用した商品開発について(複数回答)
 - 7. これからの茶に関する事業について(複数回答)

(資料) 調査票

I 「茶関連業の経営状況および意識の実態把握調査」概要

1. 「茶関連業の経営状況および意識の実態把握調査」(2019年)の目的

「茶関連業の経営状況および意識の実態把握調査」(2019年)は、三重県北勢地域の茶関連業における茶栽培の現状や経営状況および意識の実態を把握すること、同時にこれらにおける近年の変化の有無を把握することを目的としている。変化の有無を把握するため、2012年に杉浦が実施した同タイトル調査実施時と同じ質問紙を用いて実施した。

2. 「茶関連業の経営状況および意識の実態把握調査」(2019年)の概要

2019年および2012年に実施した調査の概要は、次の通りである。

【2019年】

- 調査対象 : 北勢地域で茶葉の生産、加工、卸売、小売に従事している茶関連業者
調査期間 : 2019年8月～10月
調査方法 : 三重茶農業協同組合を通して配付、返信用封筒で郵送回収
回収結果 : 配付数100サンプル、回収数45サンプル(回収率 45.0%)

【2012年】

- 調査対象 : 三重県下で茶葉の生産、加工、卸売、小売に従事している茶関連業者
調査期間 : 2012年7月5日(水)～8月27日(月)
調査方法 : 持参あるいは郵送にて配付、返信用封筒で郵送回収 *注1
回収結果 : 配付数200サンプル、回収数100サンプル(回収率 50.0%) *注2
* 注1 調査票は、三重県茶業会議所(市町地区茶業組合)および、鈴鹿市役所、大台町役場、多気町役場、三重中央農業協同組合、伊賀北部農業協同組合の皆さまにご協力いただき、持参あるいは郵送にて配付
* 注2 2012年調査における回収数100サンプルのうち、2019年調査で調査対象としている北勢地域に該当する有効回答数は45サンプル

本結果報告書は、吉田¹が自らの卒業論文に取り組む研究過程において、ゼミナール担当教員の杉浦の許可・指導を受け実施したアンケート調査で得たデータを、杉浦が分析・整理したものである。

¹ 吉田薫。名古屋学院大学商学部杉浦ゼミナール所属学生 2020年3月卒業生。

Ⅱ 「茶関連業の経営状況および意識の実態把握調査」結果

1. 有効回答の属性

【地域】あなた（貴社）が従事している茶に関する事業の主な地域を教えてください。

2019年実態把握調査は、三重茶農業協同組合を通して関係者に配付いただき実施したため、三重県内の「北勢地域」に属する回答が100%（n=45）である。

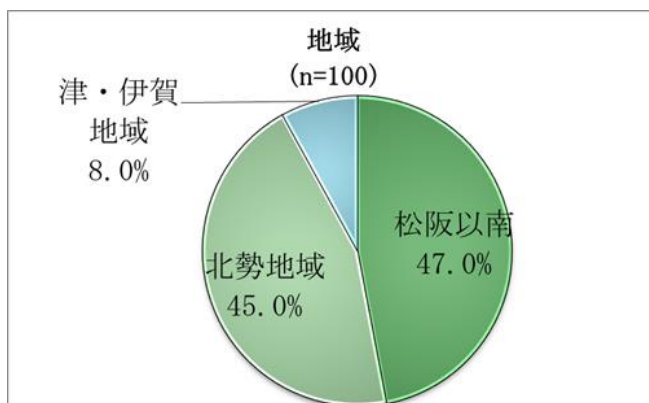
なお、本調査の目的の一つである経年変化の有無を確認するため、2012年実態把握調査結果を比較対象数値とするが、2012年は三重県下全域を調査対象としており（n=100）、その地域的属性が2019年実態把握調査と同じ北勢地域と回答したのは45%（n=45）であった。

本結果報告書の図表で用いる【2019：北勢地域】は2019年実態把握調査結果、【2012：北勢地域】は2012年に実施した実態把握調査のうち2019年の対象と同じ北勢地域（四日市市、鈴鹿市、亀山市、菟野町など）に属する有効回答のみを抜粋し集計した結果、【2012：三重県全域】は2012年に実施した実態把握調査の結果を示している。

【2019：北勢地域】



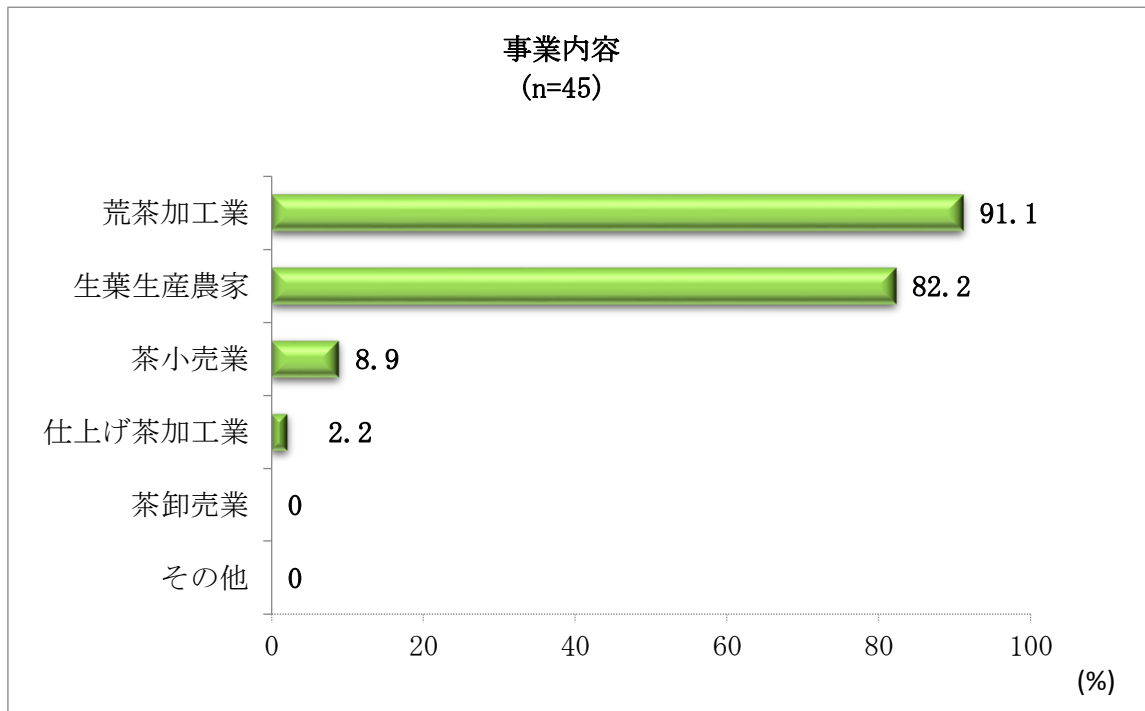
【2012：三重県全域】



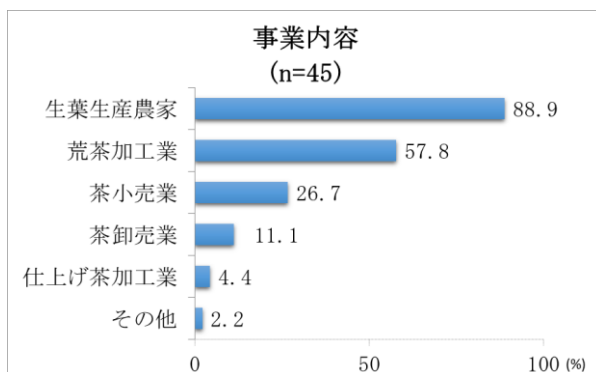
【事業内容】あなた（貴社）が関係している事業の項目、すべてに○を付けてください。

有効回答者が属する茶関連業の事業内容は、「荒茶加工業」（91.1%、n=41）、「生葉生産農家」（82.2%、n=37）に関係している比率が高い。2012年の調査に比べて2019年調査は事業の偏りが大きく、「茶小売業」（8.9%、n=4）、「仕上げ茶加工業」（2.2%、n=1）、「茶卸売業」（0.0%、n=0）の比率は低い。2019年調査結果の数値は、茶流通の川上に位置する生葉を生産している農家および荒茶に加工するまでの事業に関係している茶関連業の状況をおよび意識を濃く反映したものである。

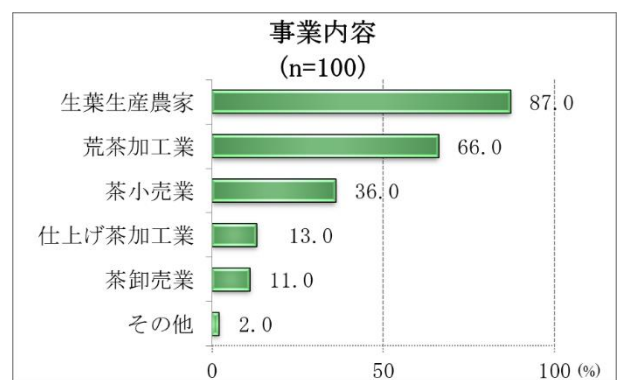
[2019：北勢地域]



[2012：北勢地域]



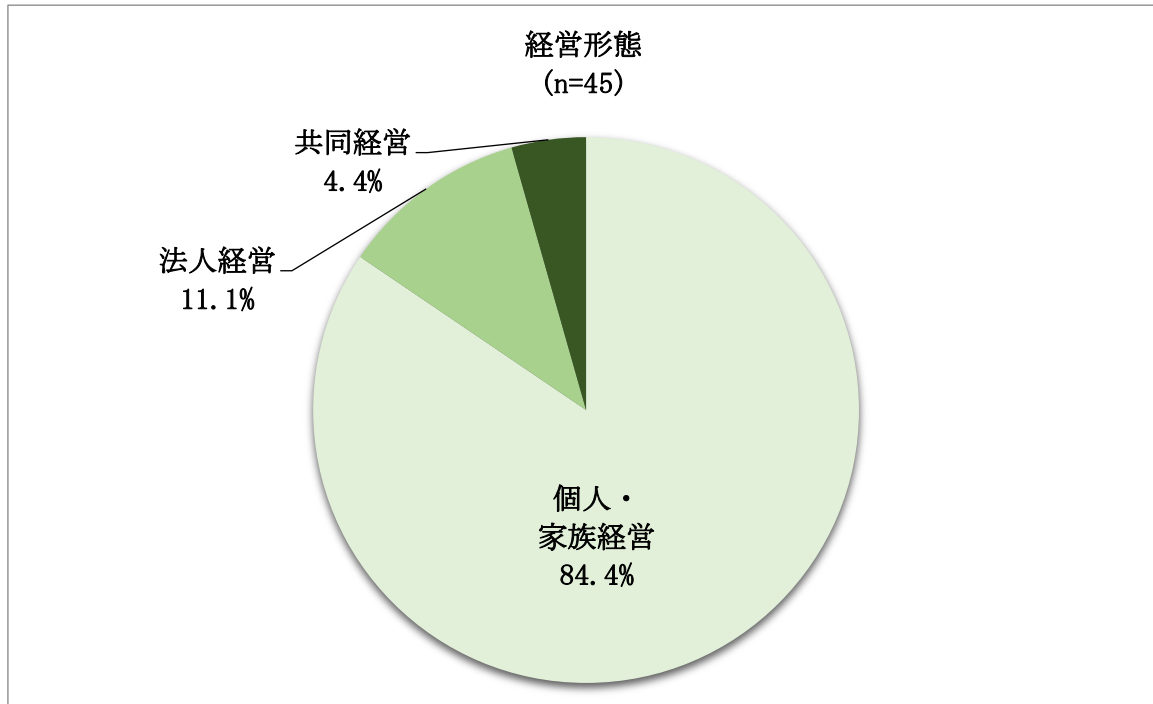
[2012：三重県全域]



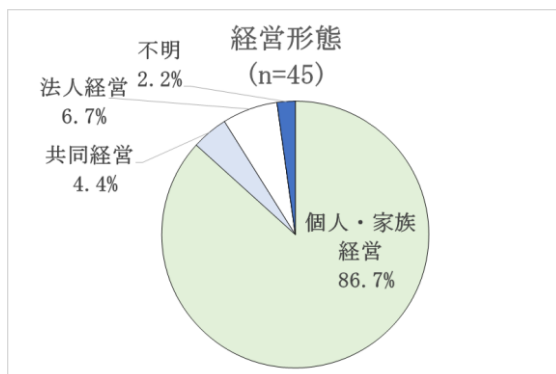
【主な経営形態】 経営形態について該当する主なものに1つ○を付けてください。

有効回答者が属する茶関連業の経営形態は、「個人・家族経営」が最も多く 84.4% (n=38) である。前回調査 [2012：北勢地域] に比べて大きな差異はない。

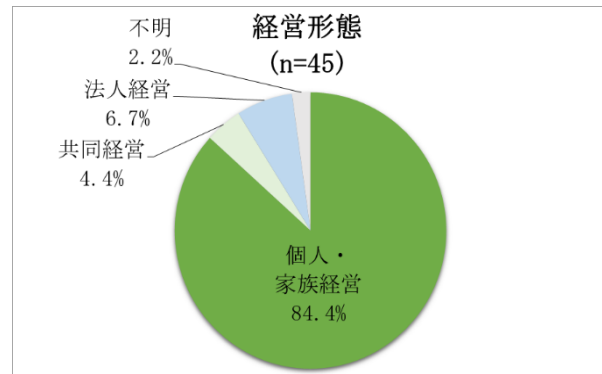
[2019：北勢地域]



[2012：北勢地域]



[2012：三重県全域]

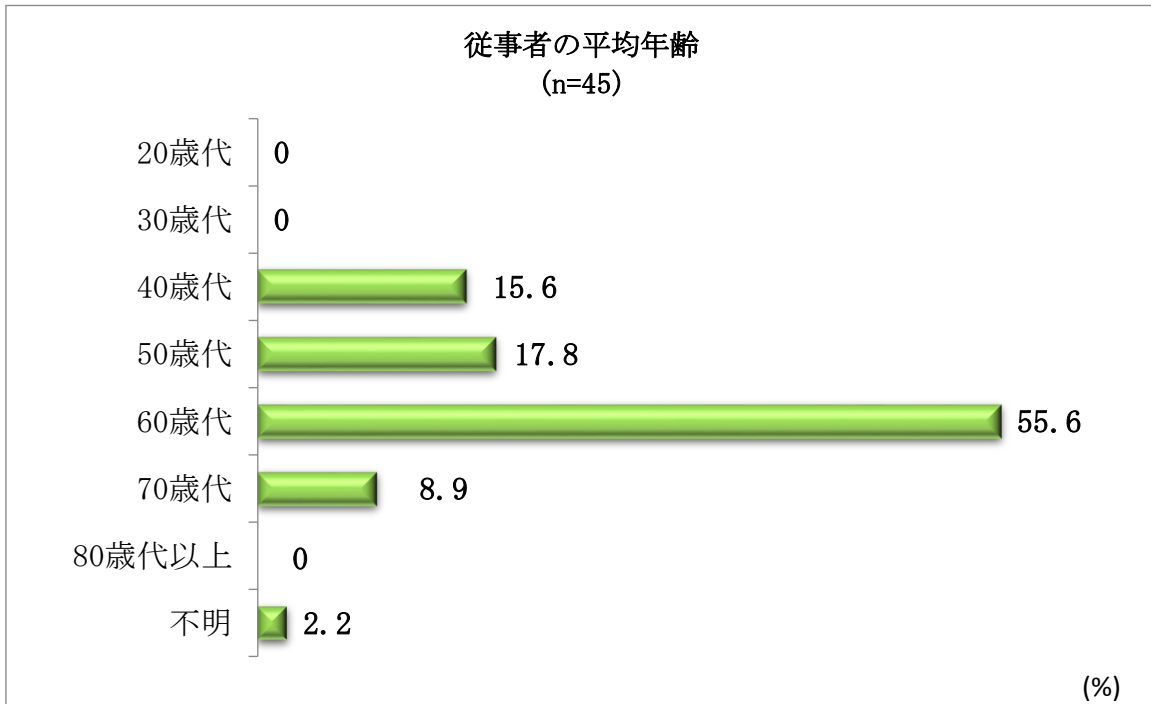


【従事者の平均年齢】 従事している人の平均年齢にあてはまる項目に1つ○をつけて下さい。

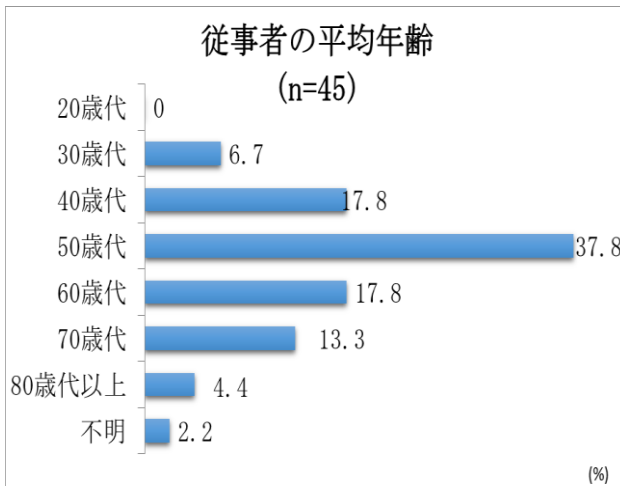
有効回答者が属する茶関連業に従事している人の平均年齢にあてはまる項目は、「60歳代」が最も多く55.6%、60歳代以上に該当する比率の合計は64.5%であった。

前回調査〔2012：北勢地域〕の60歳代以上の合計比率は35.5%、〔2012：三重県全域〕51.5%であり、北勢地域においては29.0%ポイント上昇しており、茶関連事業に従事している人の高齢化が一層進んでいると考えられる。

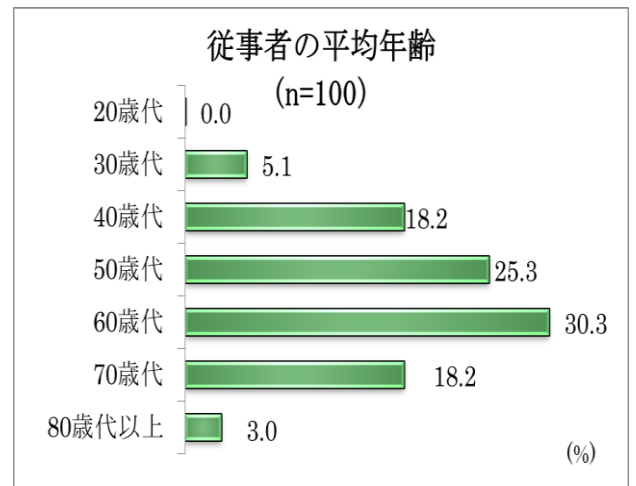
[2019：北勢地域]



[2012：北勢地域]



[2012：三重県全域]

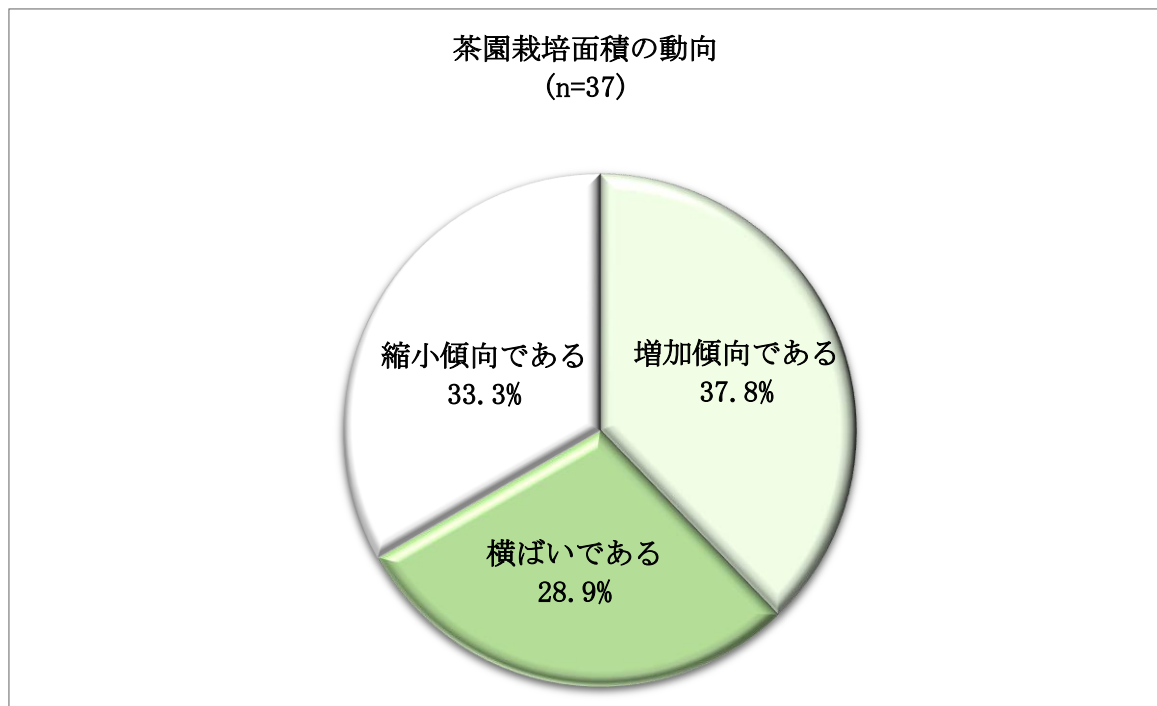


2. 茶園面積の変化と現状

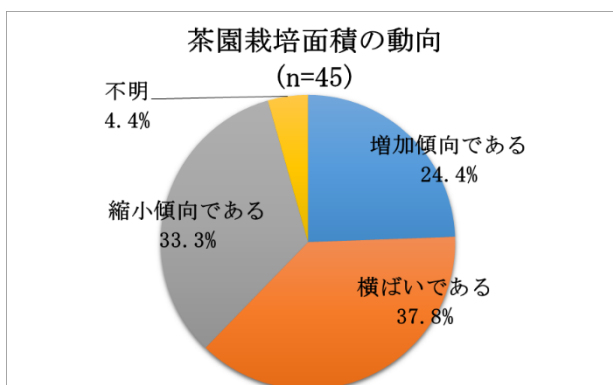
2-1 茶園栽培面積の動向（単数回答）

有効回答のうち、茶園栽培に従事している 37 サンプルの対象者が管理している茶園栽培面積の動向については、「増加傾向である」茶園が 37.8% (n=17)、「縮小傾向である」茶園が 33.3% (n=15)、「横ばいである」茶園が 28.9% (n=13)であった。「増加傾向である—縮小傾向である」の数値は、[2019：北勢地域] が 4.5%ポイント、[2012：北勢地域] が△8.9%ポイント、[2012：三重県全域] が△18.6%ポイントで、今回調査 [2019：北勢地域] では、若干ではあるが増加が縮小を上回っている。[2012：北勢地域] では増加傾向であると回答した比率は 24.4%、[2012：三重県全域] では同 20.6%であることから、増加傾向比率でも若干上昇している。一方、縮小傾向である比率は、[2012：北勢地域] は同値で変化は見受けられないが、[2012：三重県全域] の 39.2%より 5.9%ポイント低下している。

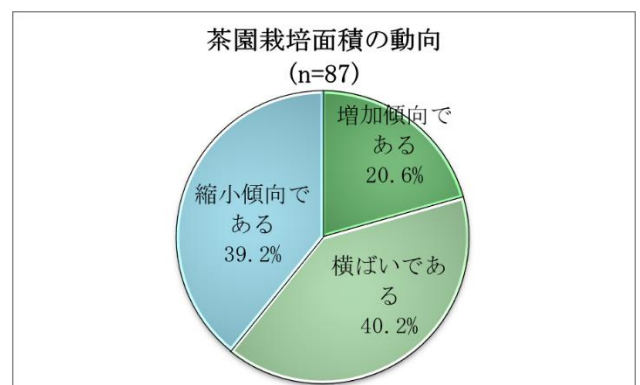
[2019：北勢地域]



[2012：北勢地域]



[2012：三重県全域]



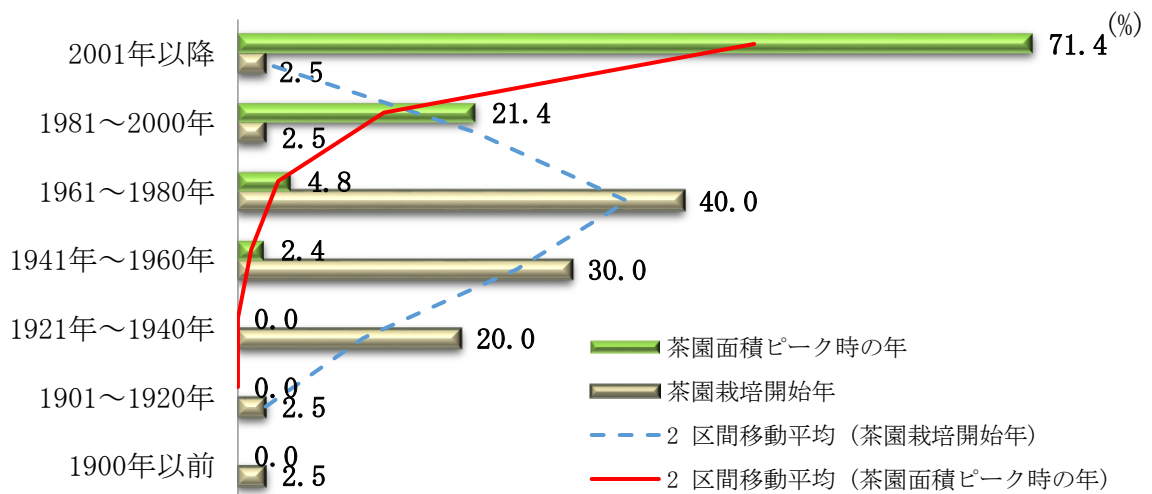
しかし、今回調査における有効回答者が現在栽培管理している茶園栽培面積の平均は 910.8a であり、ピークであった時の平均は 993.1a であることから、ピーク時に比べると 9.2% 茶園栽培面積は縮小している。下表は、これらの値を [2012：北勢地域] と [2012：三重県全域] の数値とともに示したものである。2019 年調査の有効回答事業者と 2012 年のそれとは茶園規模に大きな乖離がある可能性があり、またサンプル数も十分ではないため、経年変化を数値で比較する際には、この点を注意することを要する。

茶園栽培面積の平均	調査時点	ピーク時
[2019：北勢地域]	911.8a	993.1a
[2012：北勢地域]	1,936 a	2093 a
[2012：三重県全域]	1,357 a	1,511 a

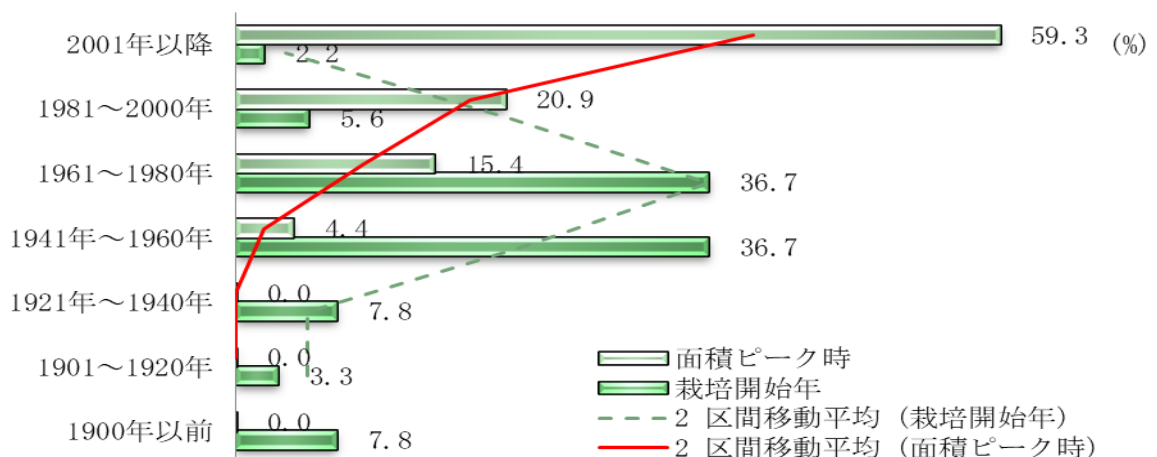
茶園栽培を開始した時期および茶園栽培面積がピークであった時期は、下図の通りである。茶園栽培を開始したのは 1961～1980 年が 40.0% で最も多いが、これをピークに比率は大幅に低下し、1981 年以降茶園栽培を開始した比率は 2.5% に留まっている。

一方で、茶園面積がピークであった時期は 2001 年以降が最も多く 71.4% であり、2012 年調査と同様、茶園栽培が特定の茶農家の手に集中している傾向が継続していると考えられる。

[2019：北勢地域]



[2012：三重県全域]

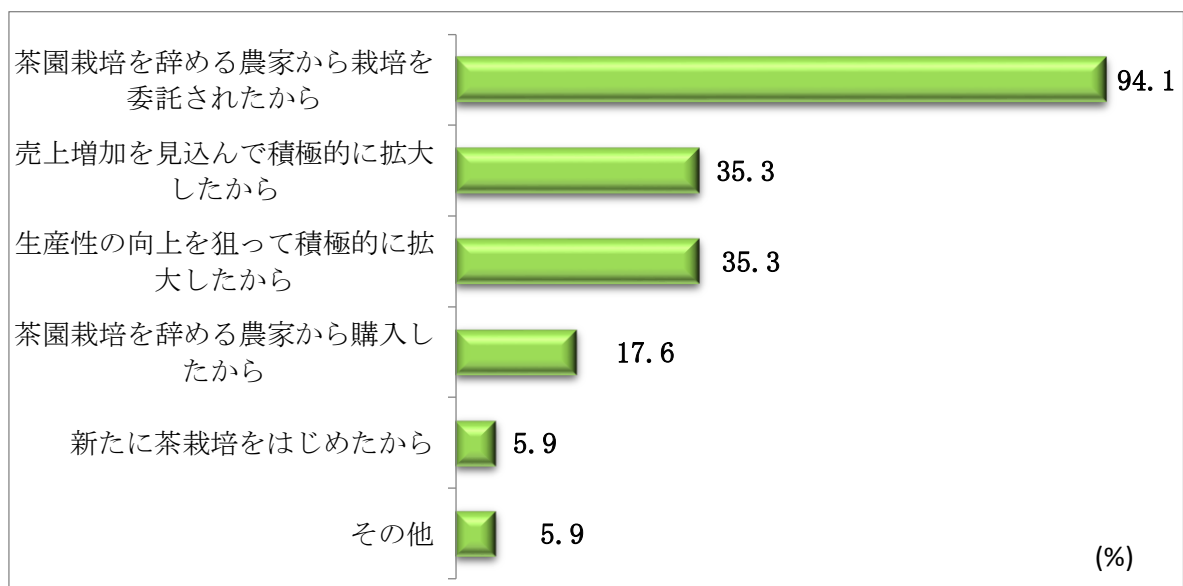


2-2 茶園栽培面積増加傾向の理由（複数回答）

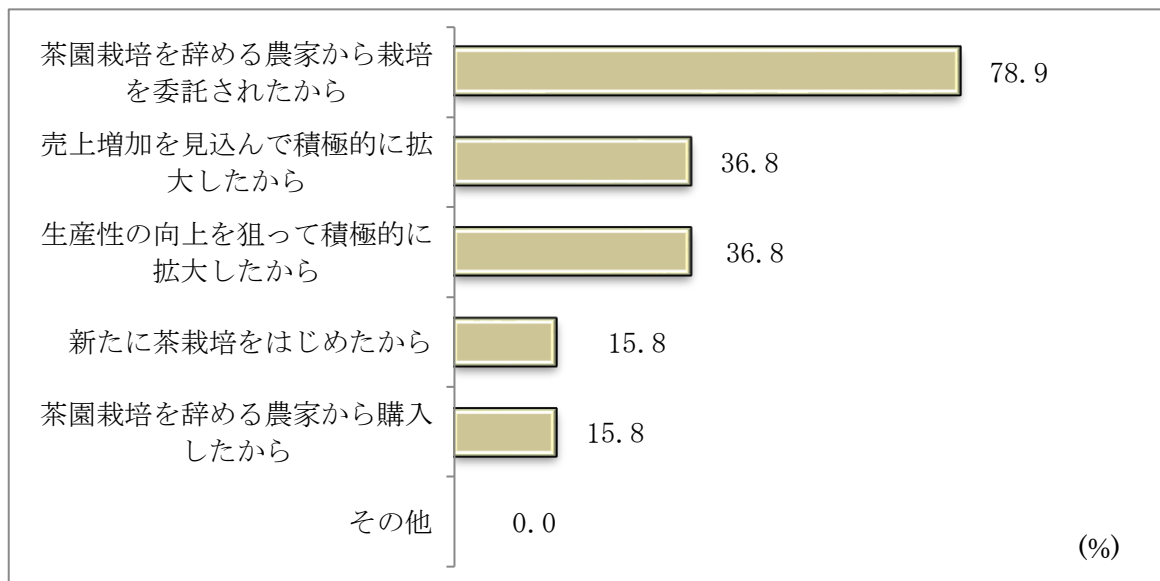
茶園栽培面積が増加したと回答した方(n=17)が、面積が増加した理由に「茶園栽培を辞める農家から栽培を委託されたから」を選択した比率は高く 94.1%である。[2012：三重県全域] の同選択肢の回答比率は 78.9%であり、15.2%ポイント上昇している。「茶園栽培を辞める農家から購入した」とする比率も 17.6%で [2012：三重県全域] の同選択肢の回答比率 15.8%を若干上回っている。この結果からも、茶園栽培が特定の茶農家の手に集中している傾向が継続していると推察できる。

一方で、「新たに茶栽培を始めたから」は 5.9%で、[2012：三重県全域] の 15.8%に比べ 9.9%ポイント低下した。

[2019：北勢地域]



[2012：三重県全域]



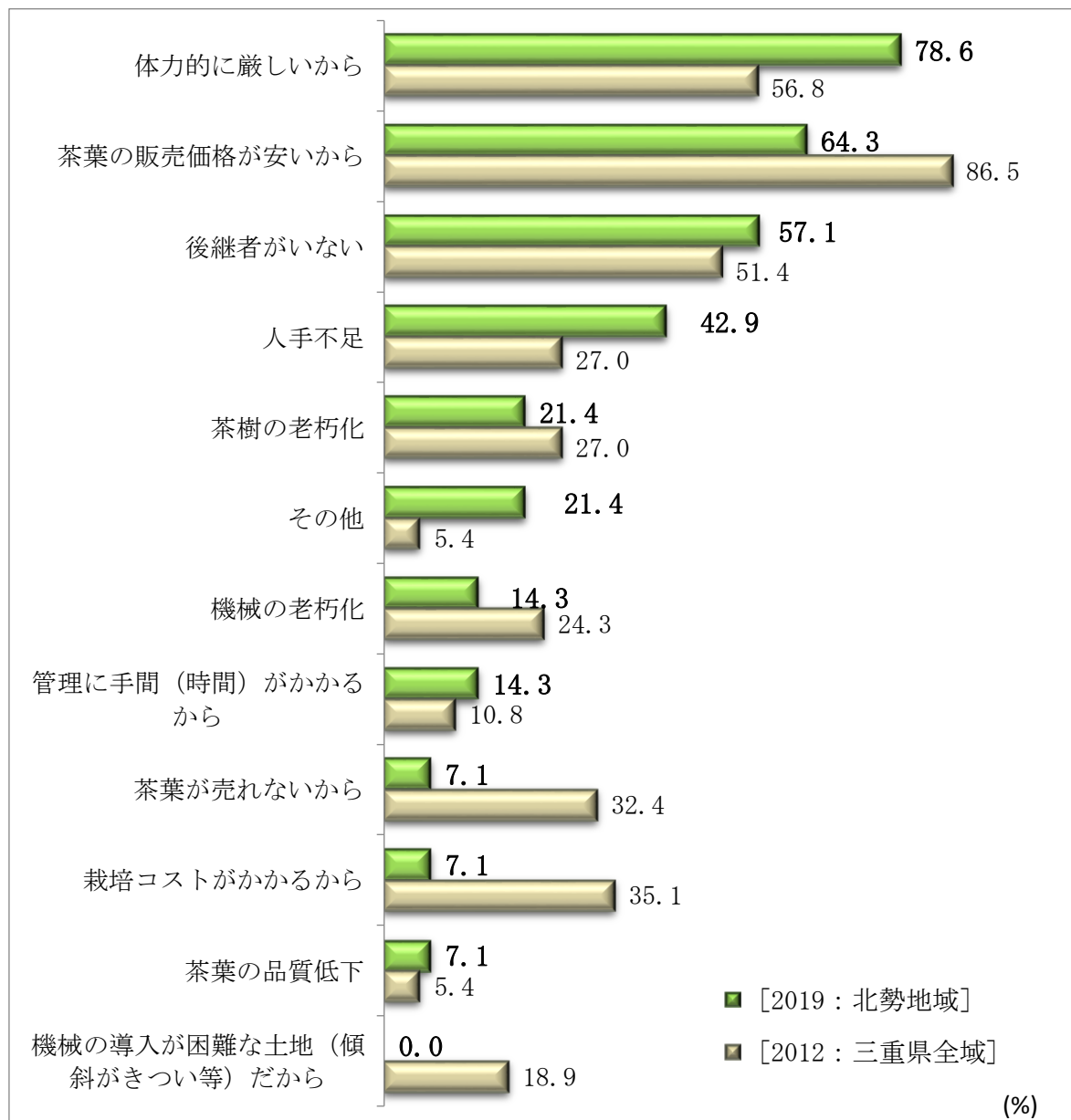
2-3 茶園栽培面積減少傾向の理由（複数回答）

茶園栽培面積が減少したと回答した方(n=15)が、面積が減少した理由に「体力的に厳しいから」を選択した比率は78.6%で最も高く、次いで「茶葉の販売価格が安いから」(64.3%)、「後継者がいない」(57.1%)、「人手不足」(42.9%)と続く。

[2012：三重県全域] に比べ、「体力的に厳しいから」の回答比率が21.8%ポイント高まっており、有効回答者が属する茶関連業に従事している人の平均年齢が60歳代以上に該当する合計比率が高まっていることを反映していると考えられる。その他、「人」に関することを栽培面積減少の理由とする比率が高くなる傾向がある一方、販売価格や栽培コストなどの金銭面、機械などを理由とする比率は低下傾向にある。

「その他」の具体的記述には、「縮小化により高品質化を目指しているから」と、前向きで意図的に縮小させている内容も含まれていた。

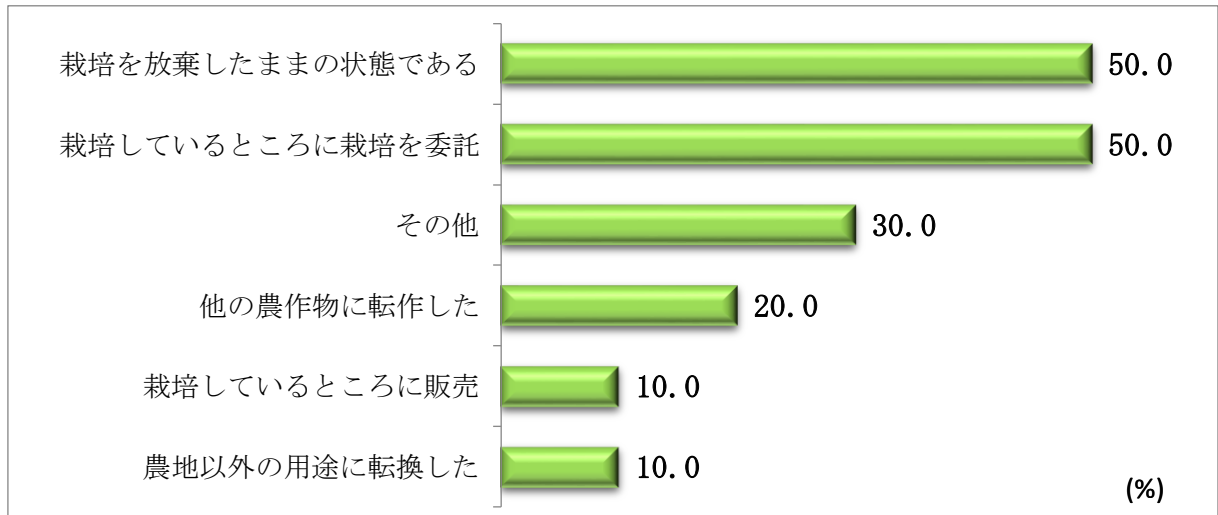
[2019：北勢地域] と [2012：三重県全域]



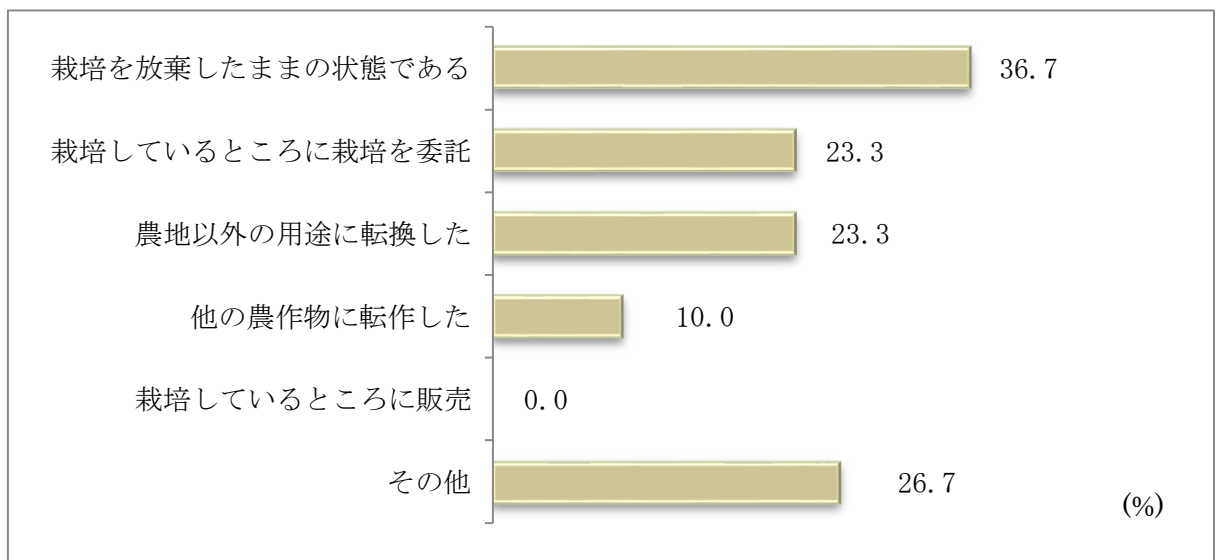
2-4 栽培放棄茶園の現状（複数回答）

茶園栽培を辞めた（縮小した）茶園の現状については(n=15)、「栽培を放棄したままの状態である」「栽培しているところに栽培を委託」している比率がともに50.0%であった。「その他」の具体的記述には、「借地だったため持主に返した」「小作畑返却し農地売却」などがあつた。

[2019：北勢地域]



[2012：三重県全域]



3. 茶園の栽培状況について

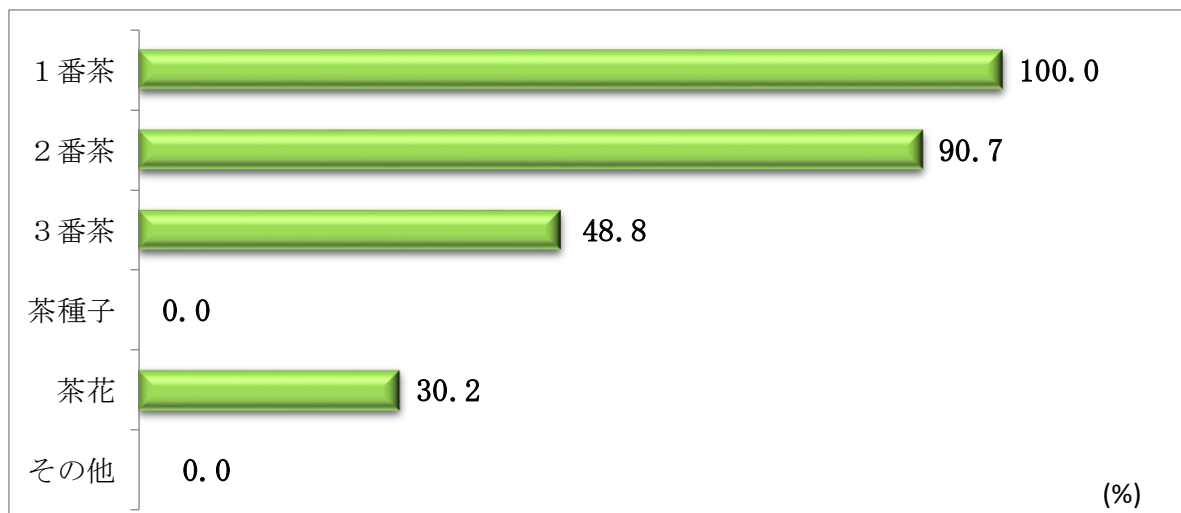
3-1 栽培している茶樹資源（複数回答）

栽培している茶樹資源は、茶葉は「1番茶」が100%、「2番茶」が90.7%、「3番茶」が48.8%であった。[2012：三重県全域]に比べ、2番茶、3番茶共に栽培比率は上昇し、3番茶においては23.3%ポイント上昇している。

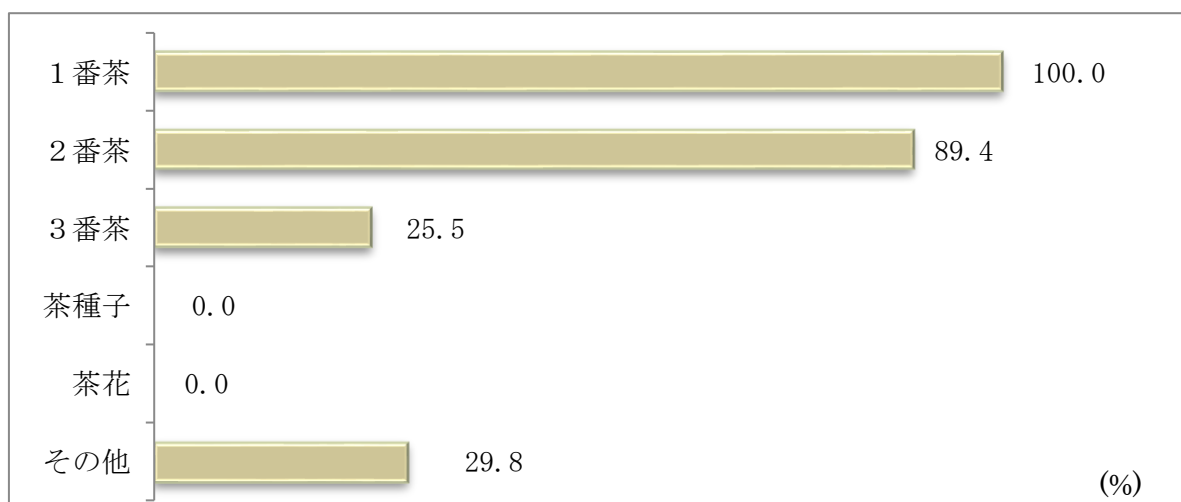
意図的に「茶種子」を栽培している率は[2012：三重県全域]同様0%であった。「茶花」も茶種子同様、[2012：三重県全域]において栽培率0%であったが、今回調査[2019：北勢地域]では茶花を栽培している率は30.2%と大幅に上昇した。

栽培している茶樹の品種は、茶園の全てにおいて、「やぶきた」が栽培されていた。具体的に栽培品種の記載があった37園のうち、「やぶきた」1品種のみを栽培している茶園は7園（15.6%）のみで、[2012：三重県全域]に比べて[2019：北勢地域]では1茶園で多品種を栽培する傾向が強くなっている。

[2019：北勢地域]



[2012：三重県全域]



【栽培している茶樹の品種・組み合わせ(複数回答)】

[2019 : 北勢地域]

1種類	やぶきた	7 茶園
2種類	やぶきた、さやまかおり	3 茶園
	やぶきた、おくみどり	1 茶園
3種類	やぶきた、さやまかおり、おくみどり	6 茶園
	やぶきた、さやまかおり、かなやみどり	3 茶園
	やぶきた、さやまかおり、きらり	1 茶園
4種類	さやまかおり、やぶきた、おくみどり、在来	2 茶園
	やぶきた、おくみどり、めいりよく、さやまかおり	5 茶園
	やぶきた、さやまかおり、きらり、めいりよく	1 茶園
	やぶきた、さやまかおり、かなやみどり、めいりよく	2 茶園
	やぶきた、おくみどり、かなやみどり、ふくみどり	1 茶園
	やぶきた、おくみどり、さやまかおり、だまみどり	1 茶園
5種類	めいりよく、さやまかおり、やぶきた、おくみどり、か	1 茶園
	やぶきた、あさのか、さえみどり、めいりよく、かなや	1 茶園
	やぶきた、さやまかおり、おくみどり、さえみどり、ふ	1 茶園
	やぶきた、さやまかおり、めいりよく、かなやみどり、	1 茶園

[2012 : 三重県全域]

1種類	やぶきた	53 茶園
2種類	やぶきた、在来種	7 茶園
	やぶきた、おくみどり	4 茶園
	やぶきた、さやまかおり	3 茶園
	やぶきた、さやまみどり	1 茶園
	やぶきた、みえうえじま	1 茶園
3種類	やぶきた、さやまかおり、おくみどり	4 茶園
	やぶきた、めいりよく、さやまかおり	3 茶園
	やぶきた、在来種、金谷みどり	2 茶園
	やぶきた、おくみどり、金谷みどり	1 茶園
	やぶきた、おくみどり、さやみどり	1 茶園
	やぶきた、おくみどり、つゆひかり	1 茶園
	やぶきた、さえみどり、あさつゆ	1 茶園
	やぶきた、さまやかおり、在来種	1 茶園
	やぶきた、さやまかおり、金谷みどり	1 茶園
	やぶきた、やまとみどり、在来種	1 茶園

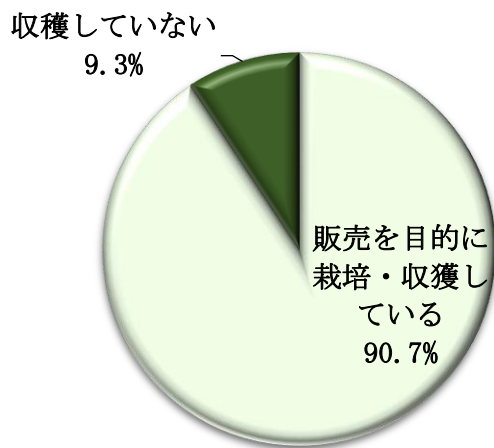
* 2012 年調査は 4 品種以上の栽培茶園データは除く

3-2 2番茶の栽培動向（複数回答）

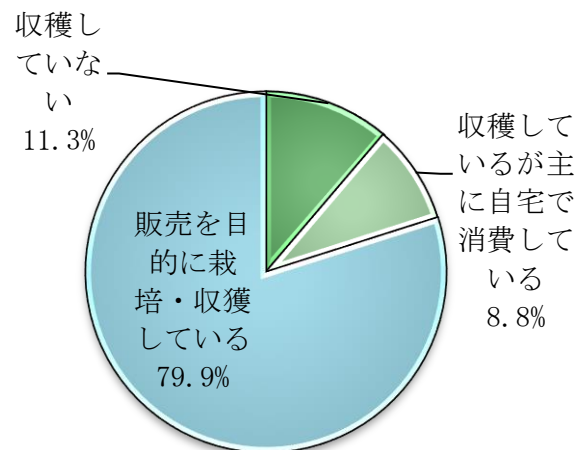
3-1で「2番茶」を栽培している比率は90.7%、39の茶園で栽培されていたが、39の茶園すべてにおいて「販売を目的に栽培・収穫している」と回答している。[2012：三重県全域]では「販売を目的に栽培・収穫している」茶園は79.9%、2割程度の茶園では自家消費を目的に栽培・収穫されているか、栽培していない結果であったが、[2019：北勢地域]においては自家消費を目的に栽培・収穫している茶園はなかった。

現在2番茶を栽培している茶園における今後の2番茶の栽培意欲は、「販売価格によっては、栽培・販売し続けたい」（65.8%）、「販売先が確保できるならば、栽培・販売し続けたい」（47.4%）と、販売価格や販売先確保などの条件付きではあるが、今後も栽培・販売し続ける意欲がある。販売価格や販売先確保の条件付きではなく「今より多くの量を栽培・販売できるよう取り組みたい」とする茶園も13.2%存在する一方で、今後「栽培・販売量は減らしていきたい」とする茶園は2.6%にとどまっている。

[2019：北勢地域]

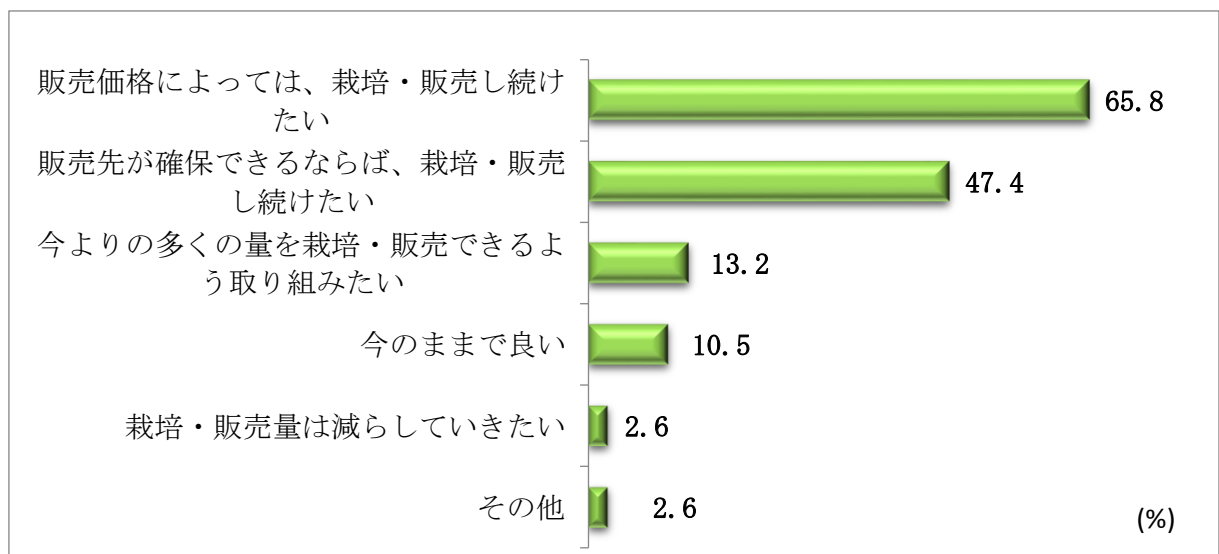


[2012：三重県全域]



[2019：北勢地域]

【今後の2番茶の栽培意欲について（複数回答）】



3-3 茶樹派生資源の動向（単数回答）

茶葉以外に派生する茶樹資源「花芽」「茶種子」の茶園における動向は次の通りである。

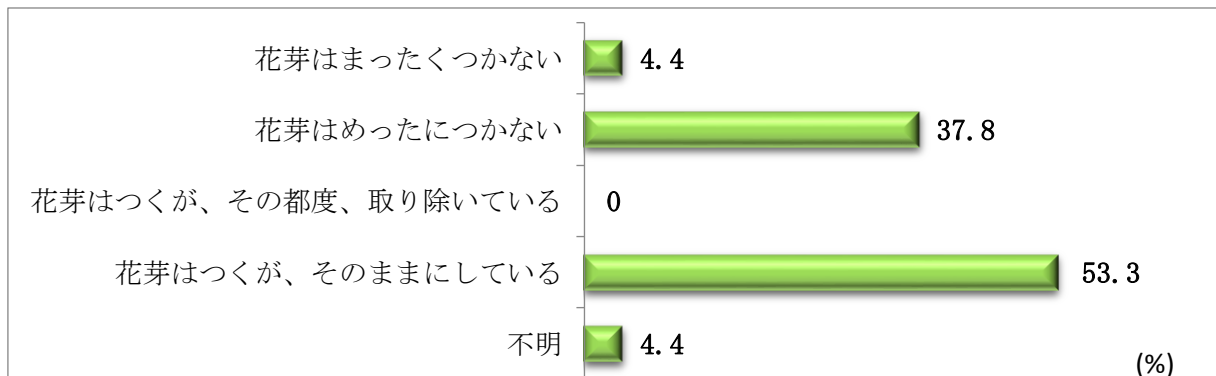
まず花芽については「花芽はまったくつかない」あるいは「花芽はめったにつかない」茶園の合計比率は42.2%で、53.3%の茶園では花芽はついている。2012年、2019年調査ともに、花芽を意図的に栽培しているか否かを問う選択肢を設けていない。[2012：三重県全域]では茶花を栽培している回答比率は0.0%であったため問題はなかったが、[2019：北勢地域]では茶花を栽培している茶園が30.2%存在していることから、「花芽はつくが、そのままにしている(53.3%)」と回答した茶園の中に、花芽を摘採している茶園が含まれていると考えられる。

茶種子については、花芽の状況とほぼ同じ動向であるが、意図的に栽培し価値を生み出す資源として活用するには至っていない。

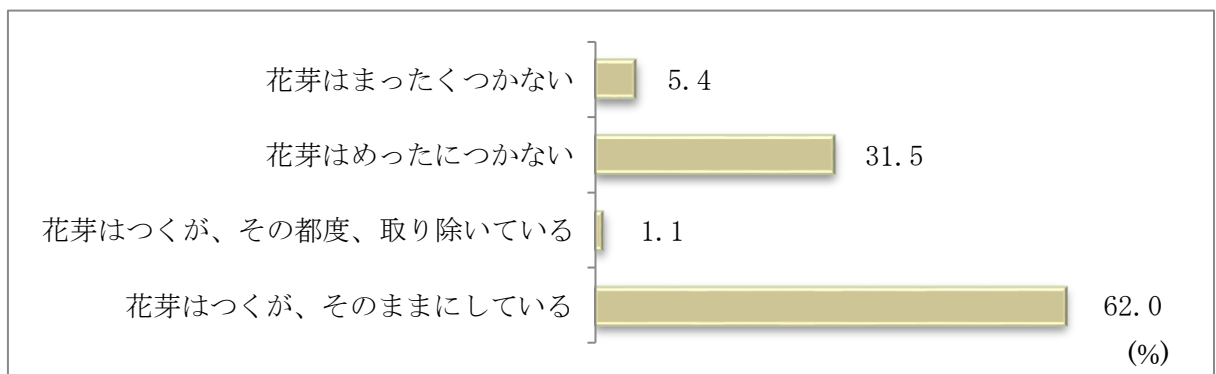
「花芽」「茶種子」は茶葉以外に派生する茶樹資源ではあるが、前回調査[2012：三重県全域]同様、積極的な栽培・収穫・販売意欲は低く、「収穫して販売するつもりはない」が77.8%である。

【花芽はついているか】

[2019：北勢地域]

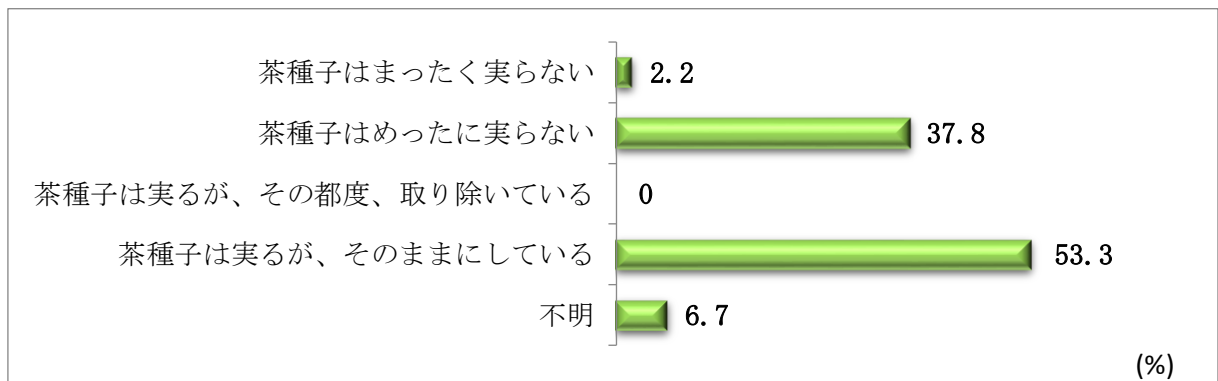


[2012：三重県全域]

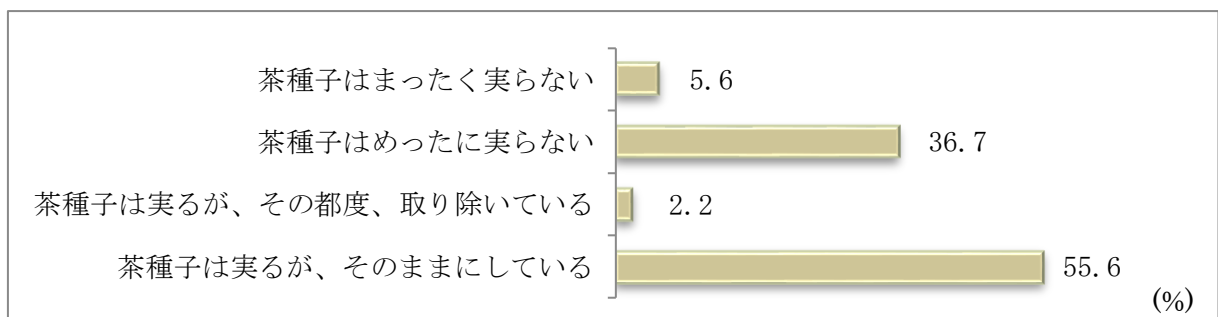


【茶種子は実るか】

[2019 : 北勢地域]

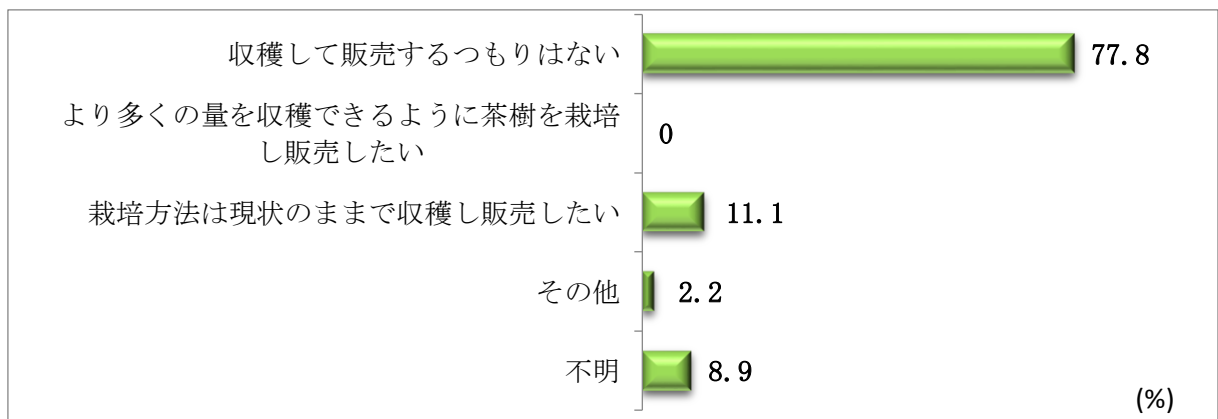


[2012 : 三重県全域]

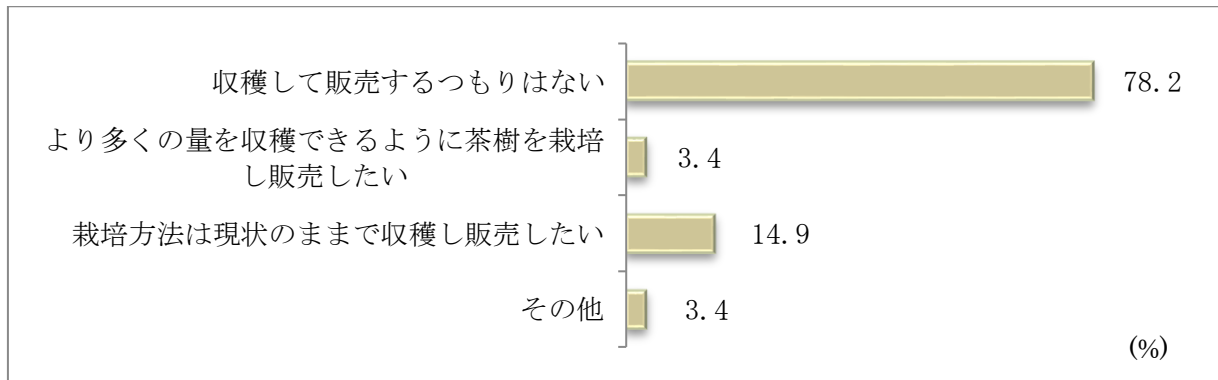


【茶花・茶種子の販売意欲】

[2019 : 北勢地域]



[2012 : 三重県全域]

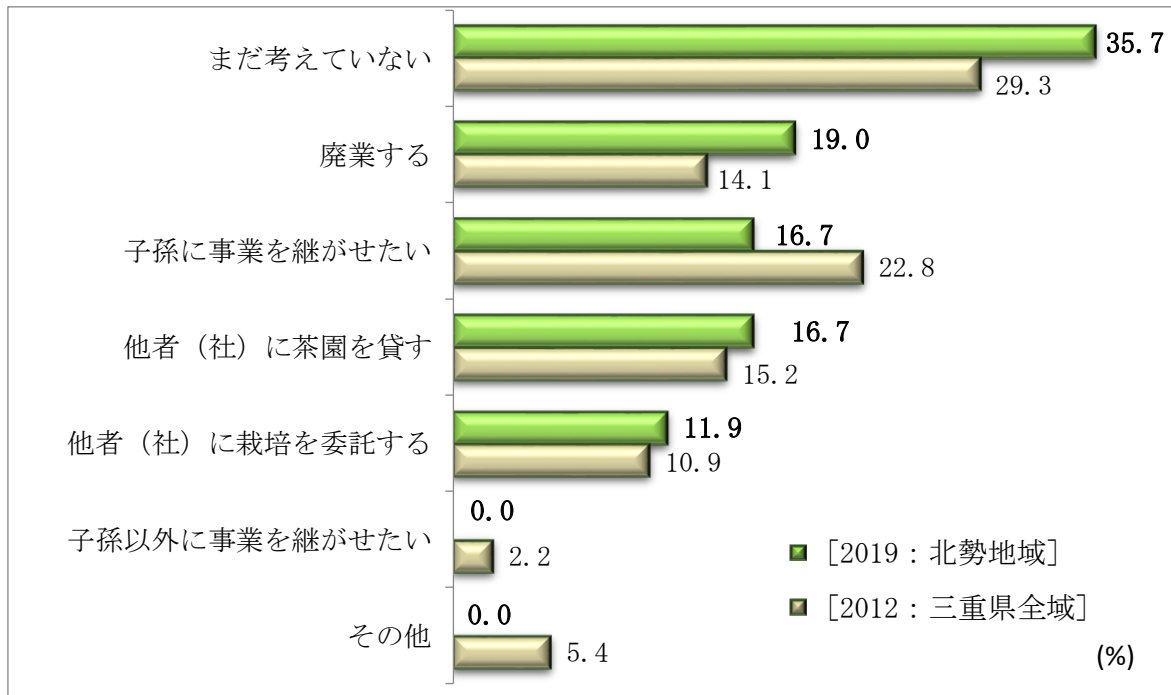


3-4 茶園栽培の今後の見通し（単数回答）

自身の茶園の今後の見通しについては、「まだ考えていない」茶園が35.7%で最も多く、[2012：三重県全域]よりも6.4%ポイント上昇した。

[2012：三重県全域]では「子孫に事業を継がせたい」（22.8%）が第2位であったが今回調査 [2019：北勢地域] では第3位で16.7%にとどまり6.1%ポイント低下した。一方、「廃業する」が第2位となり19.0%、[2012：三重県全域]よりも4.9%ポイント上昇した。

[2019：北勢地域] と [2012：三重県全域]

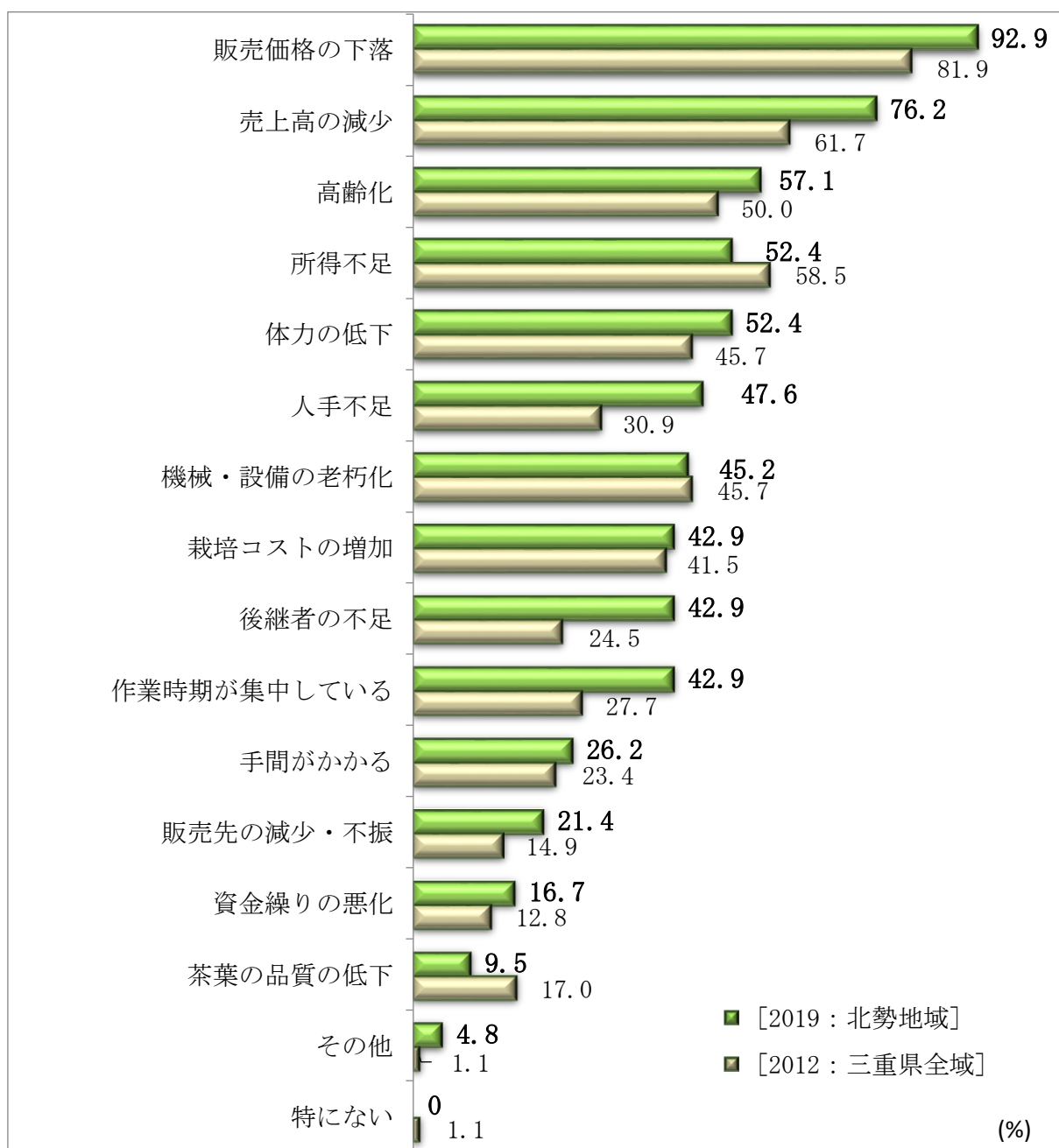


3-5 茶園栽培が直面しているあるいは解決したい課題（複数回答）

茶園栽培にあたり、自身の茶園が直面している課題（解決したい課題）については、前回調査 [2012：三重県全域] と同じく「販売価格の下落」が最も多く 92.9%、次いで、「売上高の減少」76.2%であり、ともに前回調査時の比率を上回っている。

[2012：三重県全域] に比べて回答比率が最も上昇したのは、「後継者の不足」で 18.4%ポイント、次いで「人手不足」16.7%ポイント、「作業時期が集中している」15.2%の順であり、販売価格の下落、売上高の減少をはじめとする資金面での経営課題に直面している茶園が多いと同時に、茶園栽培面積減少傾向の理由と同様に「人」に関する経営課題を抱える茶園が増えている。

[2019：北勢地域] と [2012：三重県全域]

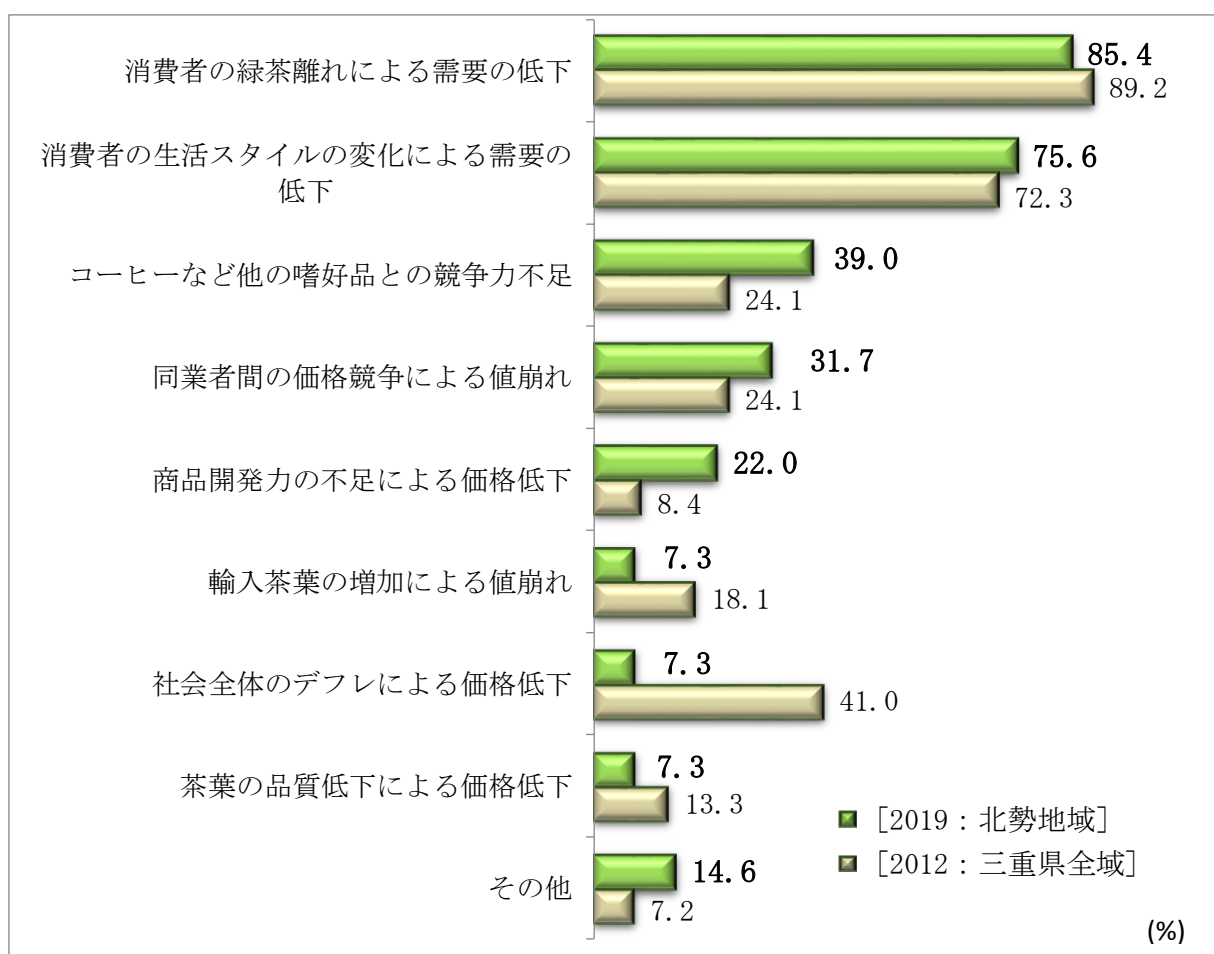


3-6 販売価格下落の要因（複数回答）

茶園栽培にあたり直面している課題に「販売価格の下落」を指摘した茶園(n=39)が考える、販売価格下落の要因は、[2012：三重県全域]と同じく「消費者の緑茶離れによる需要の低下」が最も多く85.4%、次いで、「消費者の生活スタイルの変化による需要の低下」75.6%の順となり、需要者である消費者の変化に起因する選択肢が上位を占めた。

[2012：三重県全域]に比べて回答比率が10%ポイント以上上昇したのは、「コーヒーなど他の嗜好品との競争力不足」(14.9%ポイント)と「商品開発力の不足による価格低下」(13.6%)であった。一方、[2012：三重県全域]に比べて回答比率が10%ポイント以上低下したのは、「社会全体のデフレによる価格低下」(△33.7%ポイント)、「輸入茶葉の増加による値崩れ」(△10.8%ポイント)であった。

[2019：北勢地域] と [2012：三重県全域]



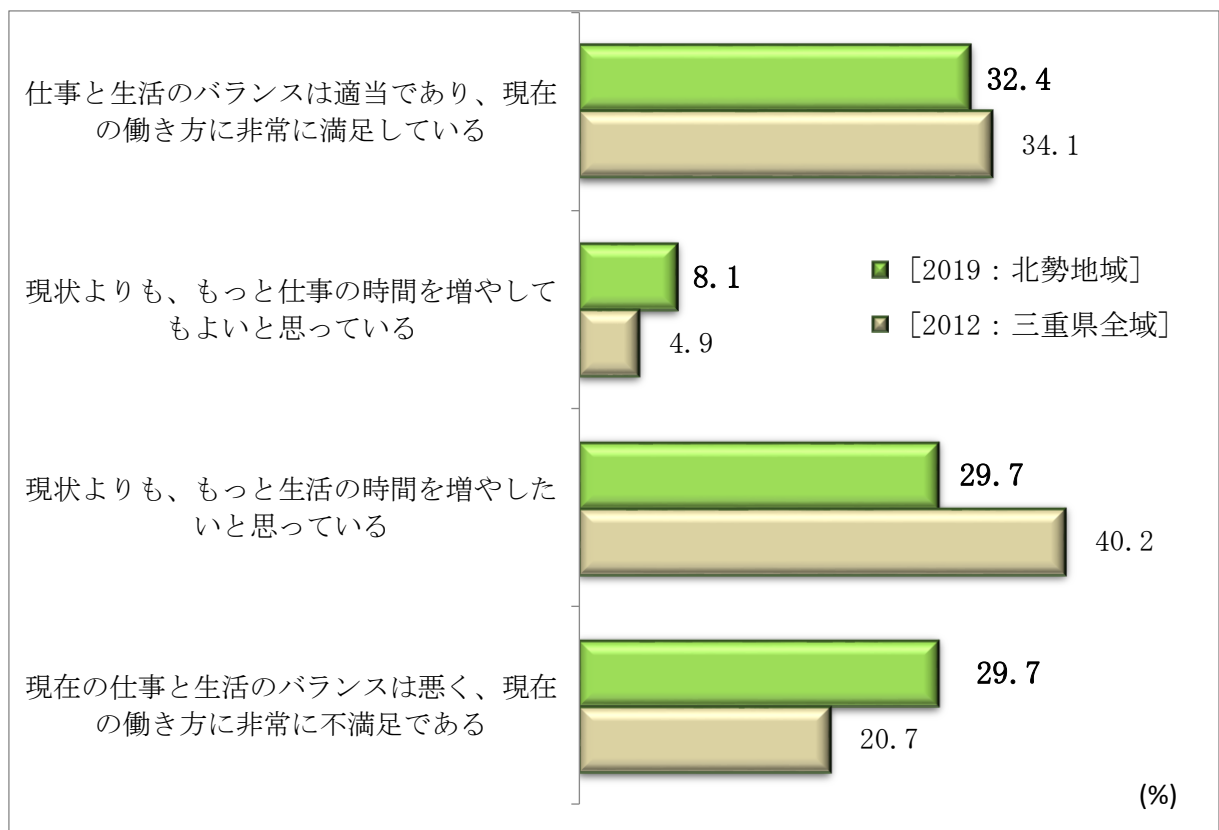
4. 茶園栽培にかかる労働について

4-1 仕事と生活に費やしている時間のバランス（単数回答）

有効回答者が考える、茶園栽培の仕事と生活に費やしている時間のバランスおよび満足感については、「仕事と生活のバランスは適当であり、現在の働き方に非常に満足している」比率が最も高く 32.4%であった。一方で、「現在の仕事と生活のバランスは悪く、現在の働き方に非常に不満足である」比率は「現状よりも、もっと生活の時間を増やしたいと思っている」とともに 29.7%であった。

前回調査の〔2012：三重県全域〕に比べ比率に差が大きいのは「現状よりも、もっと生活の時間を増やしたいと思っている」（△10.5%ポイント）、「現在の仕事と生活のバランスは悪く、現在の働き方に非常に不満足である」（9.0%ポイント）である。

〔2019：北勢地域〕と〔2012：三重県全域〕



4-2 茶栽培従事者の労働時間

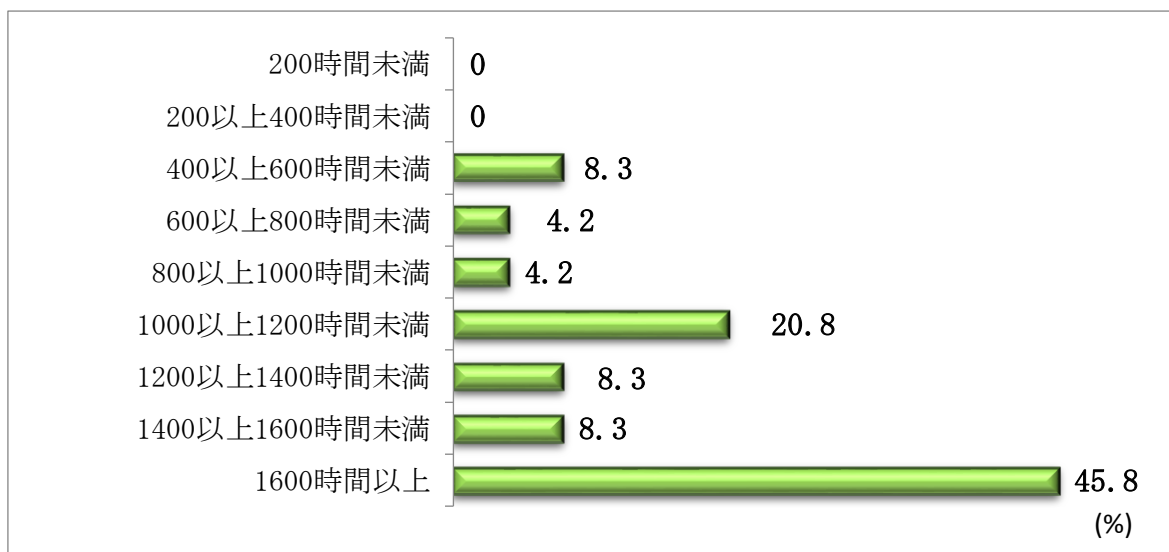
茶園栽培にかかる、1年間の総労働時間の平均は4219.2時間、中央値は平均3000時間であった。1人あたり年平均労働時間の平均は1385.7時間、中央値は1200時間であった。

(企業における一般的な月労働日数20日、1日あたり労働時間8時間に12カ月をかけて得られる年間労働時間数は、1,920時間)。

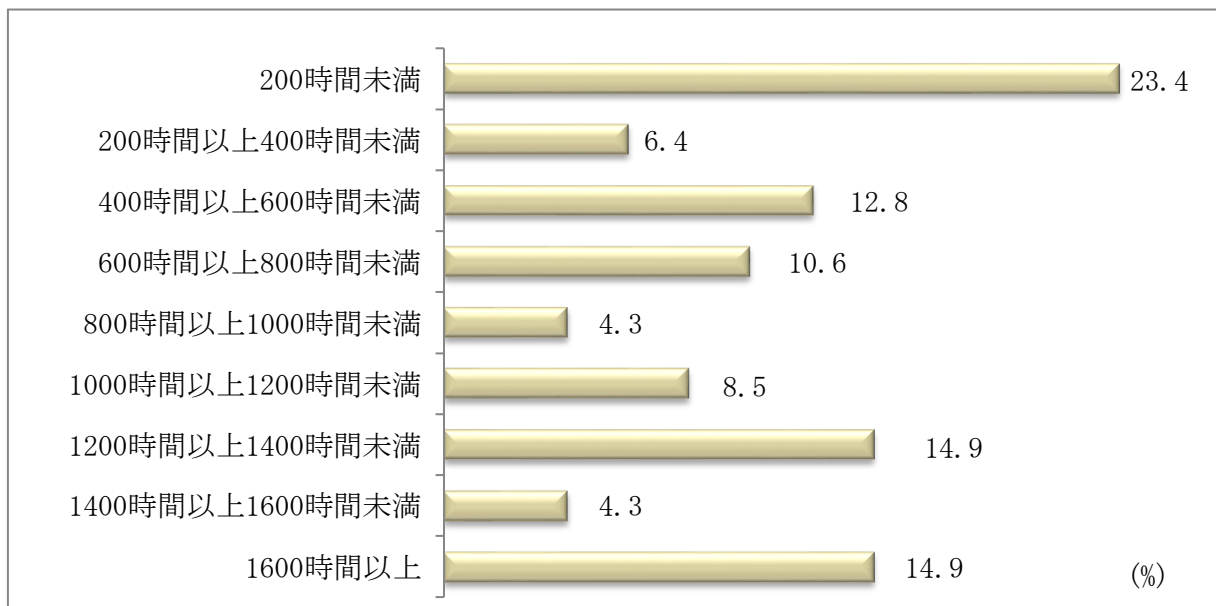
[2012：三重県全域]では、1年間の総労働時間の平均は2615.6時間(中央値1900時間)、1人あたり年平均労働時間の平均は828.7時間(中央値640時間)であったことから、茶栽培従事者の労働時間は長くなっている。

【一人あたりの平均年間労働時間】

[2019：北勢地域]



[2012：三重県全域]

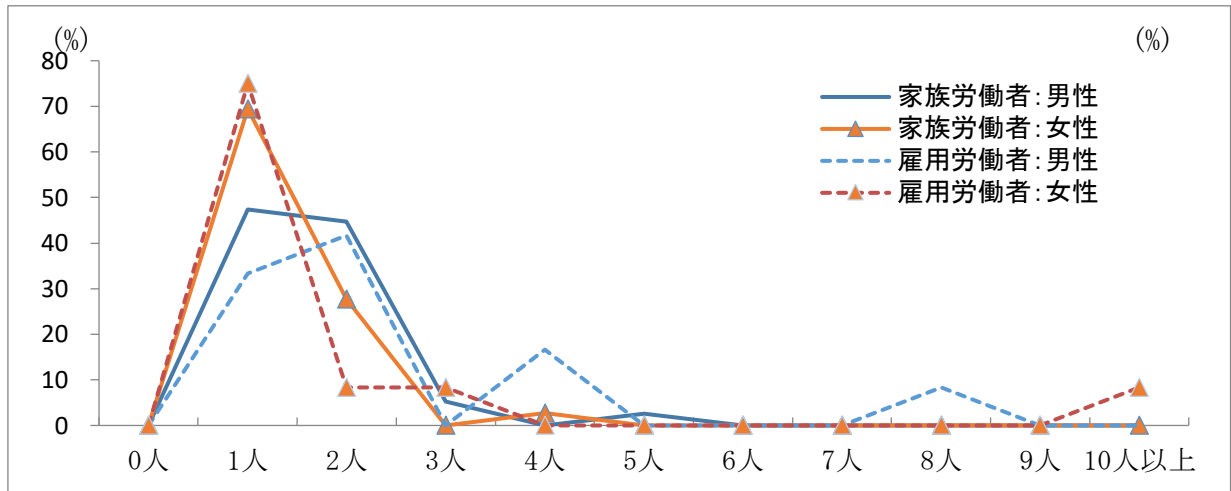


4-3 茶栽培従事者数

有効回答先の茶園に従事している平均人数は4.1人である。

家族労働者を有していない茶園は1先もなく、家族以外の労働者を雇用している茶園の比率は39.5%であった。

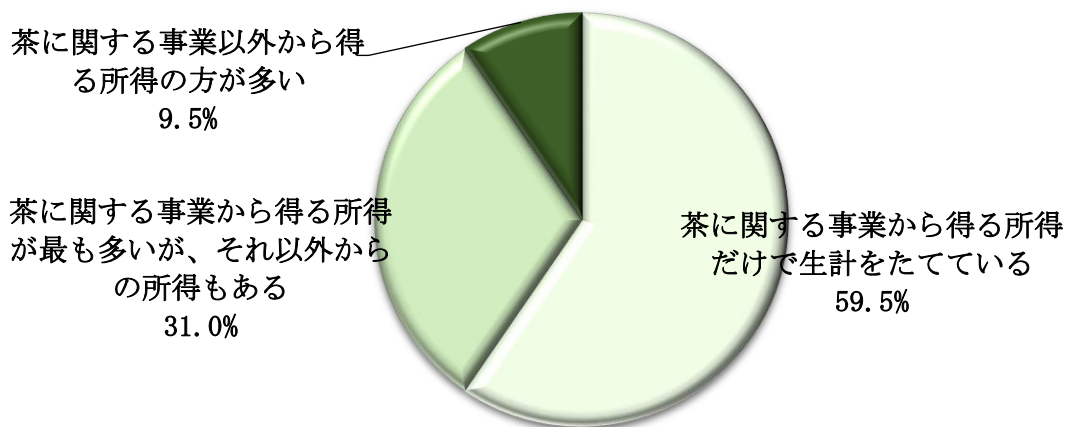
[2019：北勢地域]



4-4 茶事業への所得からみた関わり方（単数回答）

茶の事業への関わり方について、「茶に関する事業から得る所得だけで生計をたてている」比率が最も多く59.5%であった。また、「茶に関する事業から得る所得だけで生計をたてている」あるいは「茶に関する事業から得る所得が最も多いが、それ以外からの所得もある」と回答した有効回答者（合計90.5%）における、世帯全体の収入（年金含む）に占める茶に関する事業から得る所得の割合は、平均78.1%であった。

[2019：北勢地域]



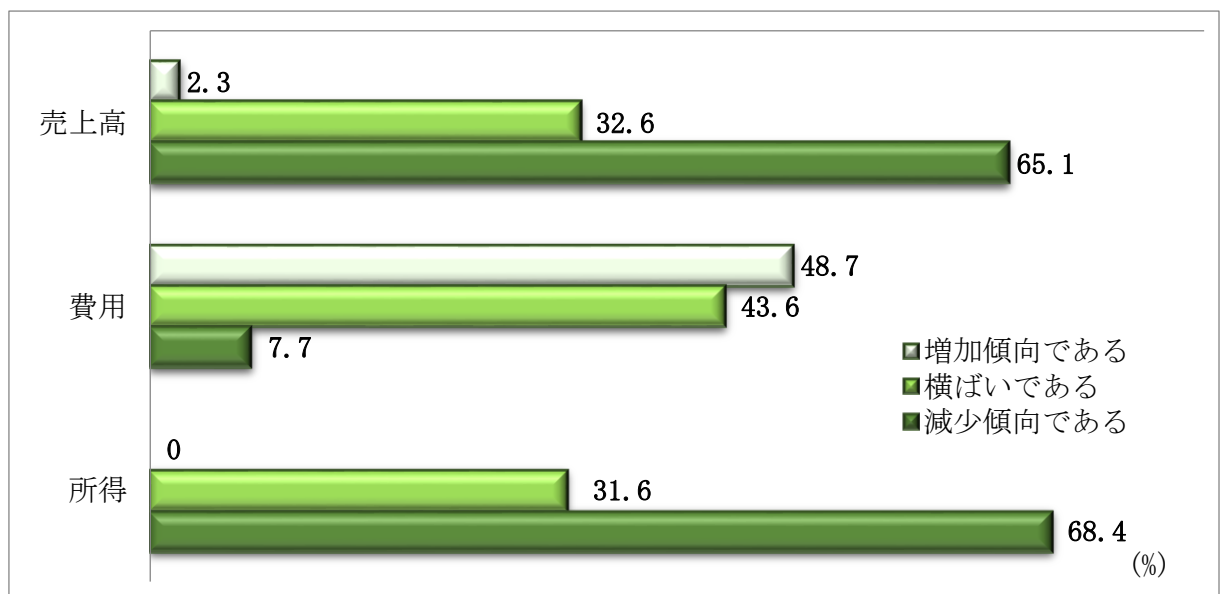
5. 茶に関する事業の経営状況について

5-1 最近 3 年間の売上高の傾向（単数回答）

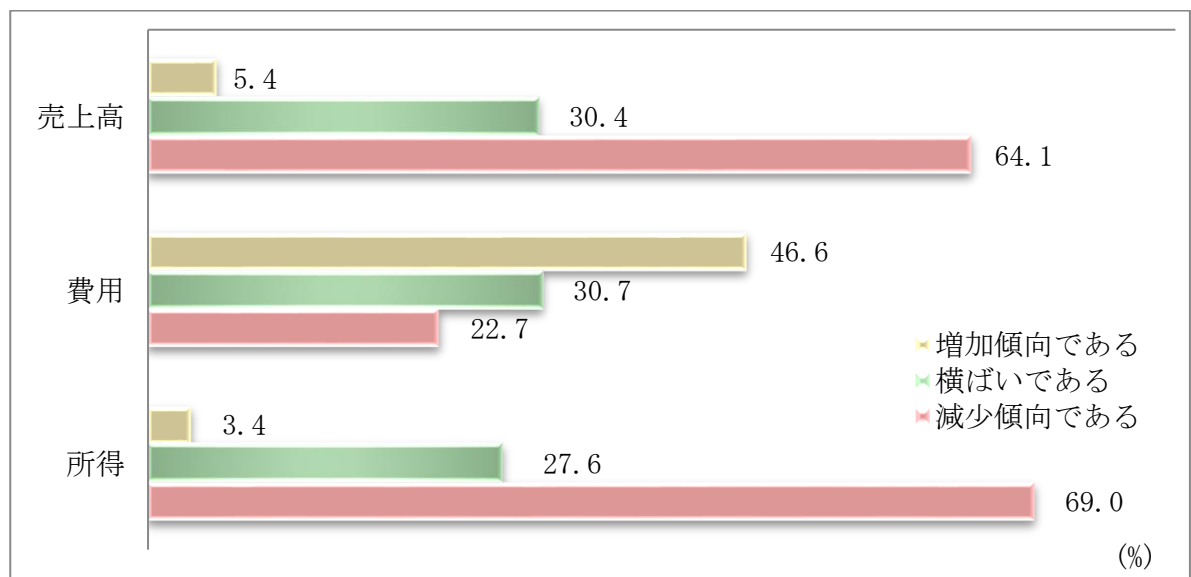
最近 3 年間の売上高は「減少傾向にある」と回答した比率が高く（65.1%）、費用は「増加傾向にある」（48.7%）、所得（ただし、法人経営の場合は税引き後利益）は「減少傾向にある」（68.4%）茶園がそれぞれ最も多く、[2012：三重県全域] と類似した傾向が継続しており、売上高の減少及び費用の増加の双方の影響により、得ている所得が減少している。

有効回答における年間の売上高、費用、所得の平均額は、年間売上高 3,950 万円、年間費用 3,068 万円、年間所得 991 万円であった。

[2019：北勢地域]



[2012：三重県全域]



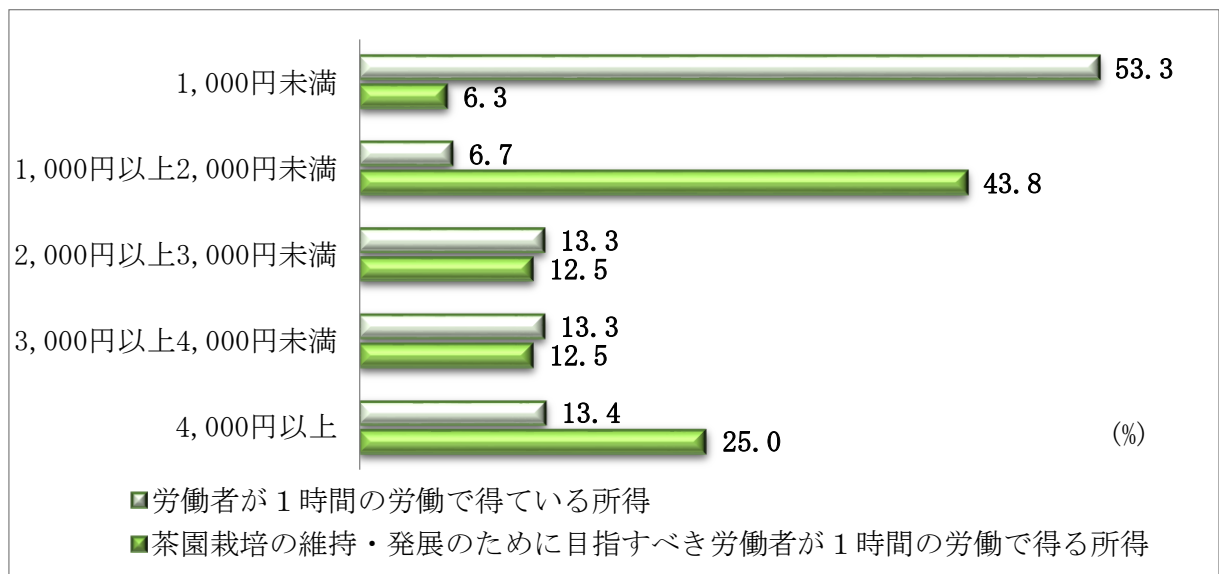
5-2 1時間の労働で得る目指すべき所得と現状

現在、労働者が1時間の労働で得ている所得は、「1,000未満」が最も多く53.3%で半数以上である。1時間の労働で得ている所得の平均は、1,386円（中央値：1,200円）であり、[2012：三重県全域]の平均は1,330円（中央値：1,000円）に近い数値であった。

茶園栽培を今後も維持・継続して発展させていくために、茶園労働者が1時間の労働で得るべきと考える最低所得金額は、1,000円以上2,000円未満が最も多く43.8%であった。

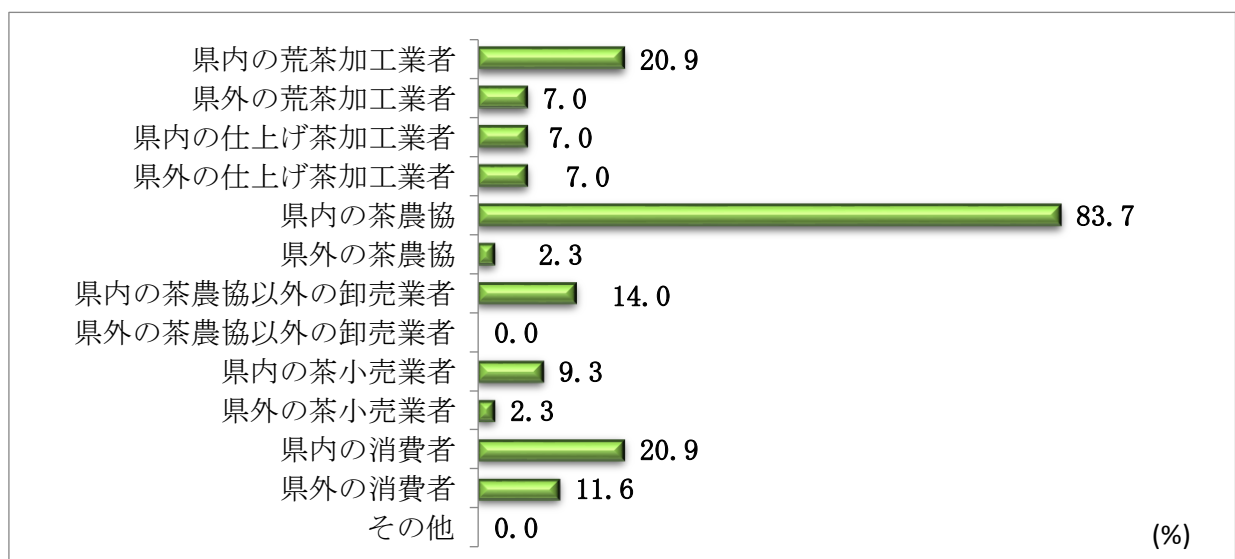
茶園労働者が1時間の労働で得るべきと考える最低所得金額の平均は4,473円（中央値：3,000円）であり、[2012：三重県全域]の平均1,798円（中央値：1,200円）に比べ高額な値となっている。

[2019：北勢地域]



5-3 現在の販売先（複数回答）

[2019：北勢地域]

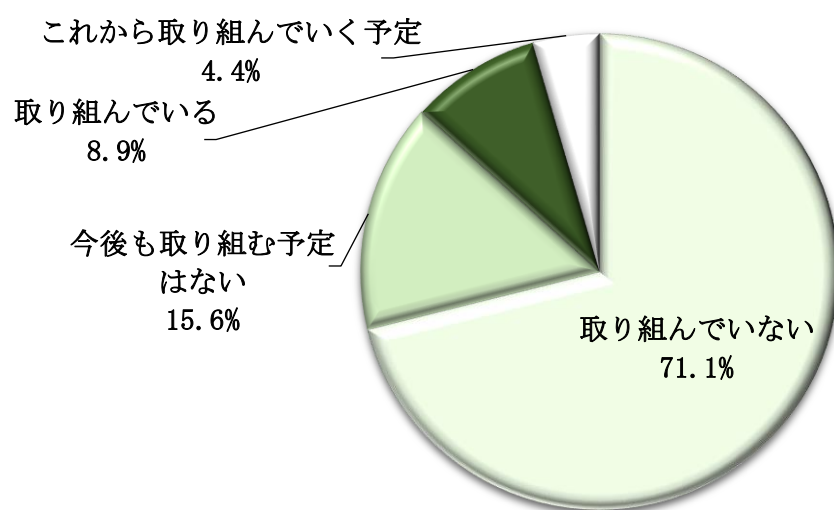


6. 茶葉を利用した商品開発について

有効回答者の71.1%が茶葉を利用した商品開発に「取り組んでいない」と回答し、また「今後も取り組む予定はない」15.6%が次いで高く、茶葉を利用した商品開発に前向きな比率は13.3%にとどまっている。

商品開発に取り組んでいる4サンプルのうち3サンプルが「自社で飲料以外の新商品開発」あげており、「外部に飲料以外の新商品開発を委託」「自社でパッケージを開発」「外部と連携してパッケージ開発」に取り組んでいると回答したサンプルは1ずつであった。

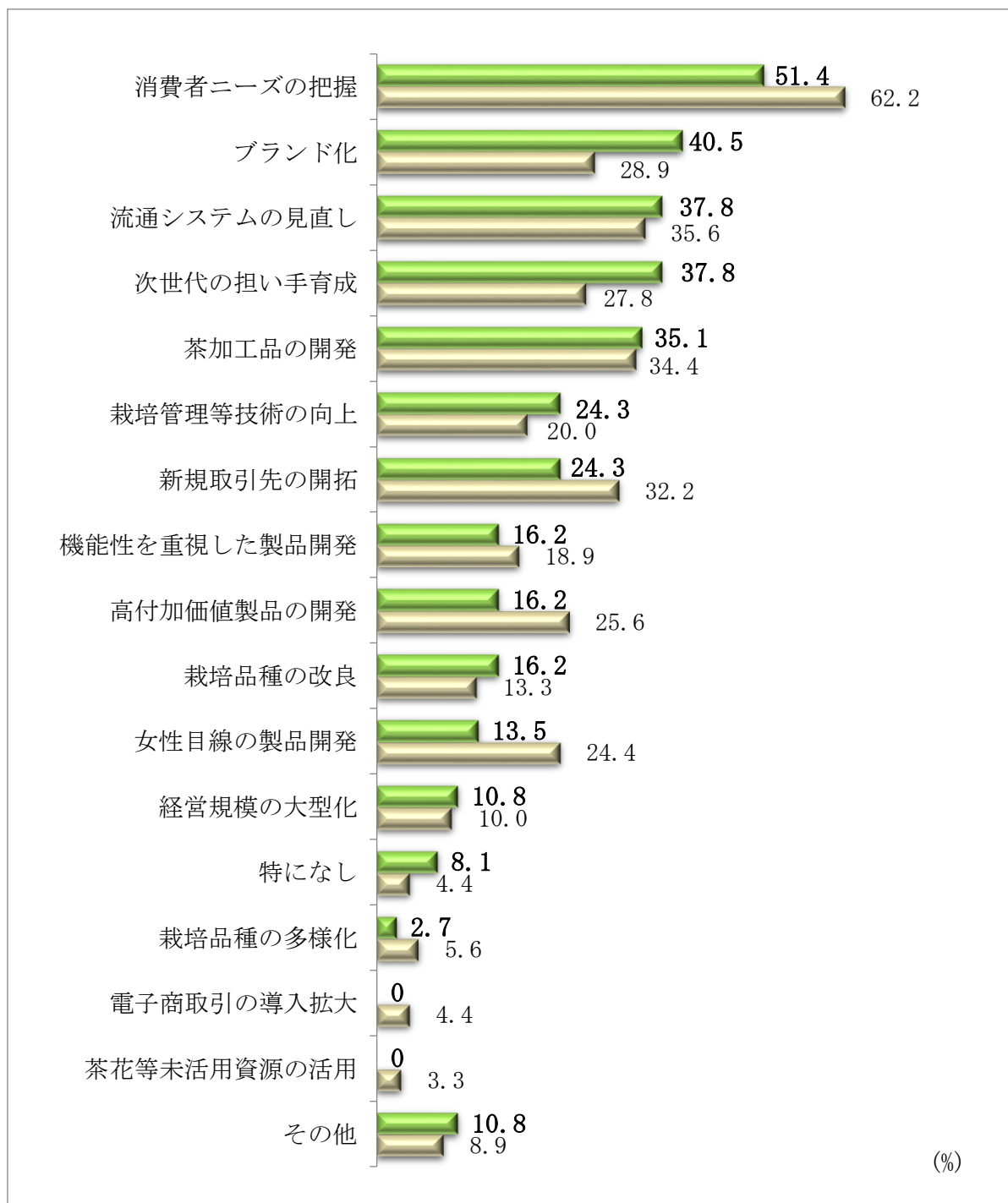
[2019：北勢地域]



7. これからの茶に関する事業について

茶に関する事業を今後、より活性化させるために取り組むべきと考える課題は、「消費者ニーズの把握」が最も高く 51.4%である。次いで「ブランド化」(40.5%)、「流通システムの見直し」および「次世代の担い手育成」(37.8%)と続く。なかでも、「ブランド化」は [2012：三重県全域] に比べ 11.6%ポイント、「次世代の担い手育成」は 10.0%ポイント上昇している。一方で「女性目線の製品開発」および「消費者ニーズの把握」の比率は、[2012：三重県全域] に比べそれぞれ 10.9%ポイント、10.8%ポイント低下している。

[2019：北勢地域] と [2012：三重県全域]



3. 茶園の栽培状況について

*あなた（貴社）が栽培している茶園のことについてお伺いします。

- 1) あなた（貴社）が栽培している茶樹の品種は何ですか。⇒ _____
- 2) あなた（貴社）が栽培し販売しているもの、すべてに○を付けてください。
① 1番茶 ② 2番茶 ③ 3番茶 ④ 茶種子 ⑤ 茶花 ⑥ その他（具体的に： _____）
- 3) 「2番茶」の活用について、該当するものに1つ○を付けてください。
① 収穫していない ② 収穫しているが主に自宅で消費している ③ 販売を目的に栽培・収穫している
- 4) 今後、「2番茶」の需要が増えたら、販売を目的に「2番茶」の栽培に取り組みたいと思いますか。あなたのお考えに近い項目すべてに○をつけてください。また、既に「2番茶」を栽培・販売している方は、下枠内の選択肢の中から、あなたのお考えに近い項目すべてに○をつけてください。
① 今後も、栽培する気はない ② 手間と費用がかかるので、栽培するつもりはない
③ 販売価格によっては、栽培し販売したい ④ 販売先が確保できるならば、栽培し販売したい
⑤ 今よりの多くの量を栽培し販売したい ⑥ その他（ _____）

既に「2番茶葉」を販売目的に栽培されている方。お考えに近い項目すべてに○をつけてください。

- ① 今のままで良い ② 栽培・販売量は減らしていきたい
③ 販売価格によっては、栽培・販売し続けたい ④ 販売先が確保できるならば、栽培・販売し続けたい
⑤ 今よりの多くの量を栽培・販売できるよう取り組みたい
⑥ その他（ _____）

- 5) 1番茶を収穫したのち、2番茶を収穫するために増加する1kgあたりのコストと労働時間、原価はいくらですか。すでに収穫されている方は、最近のおおよその数字を書いてください。現在、収穫されていない方は、販売を目指して収穫し始める場合に増加が予想されるおおよその数字を書いてください。

（増加コスト）⇒ 約 _____ 円/kg

（増加労働時間）⇒ 約 _____ 時間/kg （栽培原価）⇒ 約 _____ 円/kg

- 6) あなたの茶園の茶樹には、花芽がつくことがありますか。該当する項目に1つ○をつけてください。
① 花芽はまったくつかない ② 花芽はめったにつかない
③ 花芽はつくが、その都度、取り除いている ④ 花芽はつくが、そのままにしている
（取り除いた花芽はどうしていますか ⇒ _____）
- 7) あなたの茶園の茶樹には、茶種子が実ることがありますか。該当する項目に1つ○をつけてください。
① 茶種子はまったく実らない ② 茶種子はめったに実らない
③ 茶種子は実るが、その都度、取り除いている ④ 茶種子は実るが、そのままにしている
（取り除いた茶種子はどうしていますか ⇒ _____）
- 8) あなたの茶園の茶花や茶種子が販売できるならば収穫しますか。該当する項目に1つ○をつけてください。
① 収穫して販売するつもりはない ② より多くの量を収穫できるように茶樹を栽培し販売したい
③ 栽培方法は現状のままで収穫し販売したい ④ その他（ _____）

- 9) あなたの茶園栽培の今後の見通しについて、該当する項目に1つ○をつけてください。
- ①子孫に事業を継がせたい ②子孫以外に事業を継がせたい ③他者（社）に栽培を委託する
 ④他者（社）に茶園を貸す ⑤廃業する ⑥まだ考えていない
 ⑦その他（具体的に： _____)

- 10) 茶園栽培にあたり、あなた（貴社）が直面している課題（解決したい問題）すべてに○をつけてください。
- ①販売価格の下落 ②売上高の減少 ③所得不足 ④茶葉の品質の低下
 ⑤栽培コストの増加 ⑥体力の低下 ⑦高齢化 ⑧機械・設備の老朽化
 ⑨後継者の不足 ⑩人手不足 ⑪手間がかかる ⑫作業時期が集中している
 ⑬販売先の減少・不振 ⑭資金繰りの悪化 ⑮特にない
 ⑯その他（ _____)

→ <①販売価格の下落>と回答された方にお伺いします。

販売価格下落の要因は何であると考えますか。該当するすべてに○をつけてください。

- ①消費者の緑茶離れによる需要の低下 ②消費者の生活スタイルの変化による需要の低下
 ③同業者間の価格競争による値崩れ ④輸入茶葉の増加による値崩れ
 ⑤社会全体のデフレによる価格低下 ⑥茶葉の品質低下による価格低下
 ⑦コーヒーなど他の嗜好品との競争力不足 ⑧商品開発力の不足による価格低下
 ⑨その他（具体的に： _____)

4. 茶園栽培にかかる労働について あなた（貴社）が栽培している茶園のことについてお伺いします。

- 1) 茶園栽培に従事している人の構成人数をお答えください（あなたご自身も数に入れてご記入ください）。

形態	家族労働者		雇用労働者	
	男性	女性	男性	女性
人数	_____ 人	_____ 人	_____ 人	_____ 人

- 2) 茶園栽培にかかる、1年間の総労働時間（従事者全員分）と一人あたり平均労働時間の概算をお答え下さい。

・総労働時間⇒ 約 _____ 時間 ・一人あたり年平均労働時間⇒ 約 _____ 時間/人

- 3) 茶園栽培の仕事と生活に費やしている時間について、最もあてはまる項目に1つ○をつけてください。

- ①仕事と生活のバランスは適当であり、現在の働き方に非常に満足している
 ②現状よりも、もっと仕事の時間を増やしてもよいと思っている
 ③現状よりも、もっと生活の時間を増やしたいと思っている
 ④現在の仕事と生活のバランスは悪く、現在の働き方に非常に不満足である

- 4) 茶園栽培をこれからも維持・継続して発展させていくために必要な、所得などに関する質問です。あなたが考える金額を（ _____ ）内に記入して下さい。

- 茶園栽培をこれからも維持・継続して発展させていくためには、現在の1世帯当たりの1年間の所得金額に加えて、あと最低でも（ _____ ）円所得を増加させる必要があると思う。
- 労働者が1時間の労働で得る茶園栽培からの所得は、（ _____ ）円程度であるが、茶園栽培を維持・継続して発展させるためには、最低でも1時間の労働あたり（ _____ ）円程度まで所得を増加させる必要があると思う。

5. 茶に関する事業の経営状況について

1) 茶の事業への関わり方について、該当する項目に1つ○をつけてください。なお、所得に年金は含みません。

- ① 茶に関する事業から得る所得だけで生計をたてている
 ② 茶に関する事業から得る所得が最も多いが、それ以外からの所得もある
 ③ 茶に関する事業以外から得る所得の方が多い

例) 世帯総収入が1,000万円
 で、そのうち茶関連事業から
 得た所得が300万円の場合
 ⇒ 30%

a. ②および③と回答された方のみお答え下さい。

茶産業から得た所得が、世帯全体の収入（年金含む）に占める割合はどの程度ですか。

⇒ 約 _____ %

2) 茶に関する事業から得た、最近3年間の売上高の傾向について該当する項目に1つ○をつけてください。

また、茶に関する事業から1年間に得た売上高の、おおよその数字をお答え下さい。

①増加傾向である ②横ばいである ③減少傾向である 年間売上高⇒ 約 _____ 万円

3) 茶に関する事業にかかる、最近3年間の費用の傾向について該当する項目に1つ○をつけてください。

また、茶に関する事業にかかる1年間の費用の、おおよその数字をお答え下さい。

①増加傾向である ②横ばいである ③減少傾向である 年間費用額⇒ 約 _____ 万円

4) 茶に関する事業から得た、最近3年間の所得の傾向について該当する項目に1つ○をつけてください。

また、茶に関する事業から1年間に得た所得の、おおよその数字をお答え下さい。

*所得は、法人経営の場合は税引き後利益、その他個人・家族経営の場合は「売上」－「費用」

①増加傾向である ②横ばいである ③減少傾向である 年間所得額⇒ 約 _____ 万円

5) 現在、茶葉を利用した商品開発に取り組んでいますか。該当する項目すべてに○をつけてください。

- ①取り組んでいない ②これから取り組んでいく予定 ③今後も取り組む予定はない
 ④自社で飲料以外の新商品開発 ⑤外部に飲料以外の新商品開発を委託 ⑥外部と連携して新商品開発
 ⑦自社でパッケージを開発 ⑧外部にパッケージ開発委託 ⑨外部と連携してパッケージ開発
 ⑩その他 (_____)

開発に取り組まれた方 ⇒ 売上高は増加しましたか。 ①はい ②いいえ ③変化なし

6) あなた（貴社）の販売先はどこですか。該当する項目すべてに○をつけてください。

- ①県内の荒茶加工業者 ②県外の荒茶加工業者 ③県内の仕上げ茶加工業者
 ④県外の仕上げ茶加工業者 ⑤県内の茶農協 ⑥県外の茶農協
 ⑦県内の茶農協以外の卸売業者 ⑧県外の茶農協以外の卸売業者 ⑨県内の茶小売業者
 ⑩県外の茶小売業者 ⑪県内の消費者 ⑫県外の消費者
 ⑬その他 (_____)

6. これからの茶に関する事業について

1) 茶に関する事業を今後、より活性化させるために、取り組むべき課題は何であると考えますか。該当するものすべてに○を付けてください。

- ①消費者ニーズの把握 ②ブランド化 ③機能性を重視した製品開発 ④女性目線の製品開発
 ⑤高付加価値製品の開発 ⑥茶加工品の開発 ⑦栽培品種の多様化 ⑧栽培品種の改良
 ⑨栽培管理等技術の向上 ⑩新規取引先の開拓 ⑪電子商取引の導入拡大 ⑫経営規模の大型化
 ⑬流通システムの見直し ⑭次世代の担い手育成 ⑮茶花等未活用資源の活用 ⑯特になし
 ⑰その他（具体的に： _____)

以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。

以上